

授業力の向上と校内研究の活性化

～ 学びに向かう力の育成を通して～



指導案バンク QRコード

令和5年3月

後志教育研修センター

社会背景が急激に変化する時代の中で、次代を担う子どもたちには多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となる資質・能力を身につけることが求められています。

序

当センターでは北海道教育研究所連盟第17次共同研究『学びに向かう力の育成に向けた指導と評価の在り方』を主題とする研究に参画し、『授業力の向上と校内研究の活性化～学びに向かう力の育成を通して～』を研究主題として、4年次研究の後半にあたる3年目の研究を推進しております。

『難しいことは易しく、
易しいことは重たく、
そして広く』
(5)

研究委員会では「学びに向かう力」の育成について、所員が担当する3つの研修講座、「校内研修」、「学習指導（授業づくり）」、「学習指導（授業改善）」を通して調査研究を深めてまいりました。また、本年度は研究内容を確認する検証授業を3年ぶりに所員が会同して仁木町立仁木小学校を会場に開催することができました。研修講座で発信したことや理論研究を行ったことが、学びに向かう力を育成する授業となるかどうかを検証しました。

～使えて、役に立つ調査研究～

調査研究の中間報告という位置づけされる調査研究事業報告会は管内から70名近い参加を得ました。今回の報告会の一番の成果は、教諭等の先生方が半数近く参加し、質疑応答の時間で発言は全てこの先生方であったということからも、当センターの取組が少しずつではありますが、一般の先生方に広まりつつあることを実感しました。

その中で、『指導案バンク』と『板書型指導案』の2つが参加者の目にとまったようです。「使えて、役に立つ調査研究」、所員と検討し続けて3年、やっと願いが叶えそうです。今後、内容を検討して、管内教職員の授業づくりや授業改善に役立ててもらえるよう、より充実した「しりべし指導案バンク」を目指していきます。

当センターの調査研究の内容を小樽・後志の教職員が「そうなのか」と理解し、「この位なら自分でもできる」という気持ちになってくれることを願います。その後、実際に各学校で使ってみて、その成果はどうであったのか検証され、最終的には、子供たちへに還元されることが一番大切なこととなります。そこで初めて当センターの調査研究の価値が生まれることとなります。

結びになりますが、所員を支えて頂いた校長先生、そしてご指導いただきました北海道教育庁後志教育局、教育関係機関の皆様へ厚く感謝申し上げます。発刊の言葉と致します。

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠

令和5年3月

目 次

◇序

後志教育研修センター 所長 長 谷 川 誠

学習指導に関する調査研究委員会

【第1章】 研究の概要

【担当：鶴見・森】

- 1 研究主題および副主題……………研究の概要－1
- 2 主題設定の理由……………研究の概要－1～2
- 3 研究仮説……………研究の概要－3
- 4 研究の視点……………研究の概要－3
- 5 研究計画……………研究の概要－4～5
- 6 研究構造図……………研究の概要－6
- 7 調査研究委員の経過報告……………研究の概要－7～8

【第2章】 研究の内容

I 研修講座

「校内研修」から

【担当：田口・森本・高田】

- 1 研究主題解決に向けて……………校内研修－1～6
- 2 「学びに向かう力」研修パッケージの提案……………校内研修－7～11

「学習指導（授業づくり）」から 【担当：武田・中村・山本】

- 1 1単位時間の授業づくり（小学校）……………学習指導（授業づくり）－1～13
- 2 1単位時間の授業づくり（中学校）……………学習指導（授業づくり）－14
- 3 授業実践……………学習指導（授業づくり）－15～22

「学習指導（授業改善）」から 【担当：富樫・千葉・菊地】

- 1 主体的・対話的で深い学びにむけた授業改善の視点……………学習指導（授業改善）－1～9
- 2 授業実践……………学習指導（授業改善）－10～11
- 3 協議・交流から、受講者アンケートから……………学習指導（授業改善）－12～14

II 検証授業について……………検証授業－1～4

III 指導案バンクについて……………指導案バンク－1～4

【第3章】 研究の成果と課題

◇あとかぎ

【第1章】

研究の概要

<第1章>研究の概要

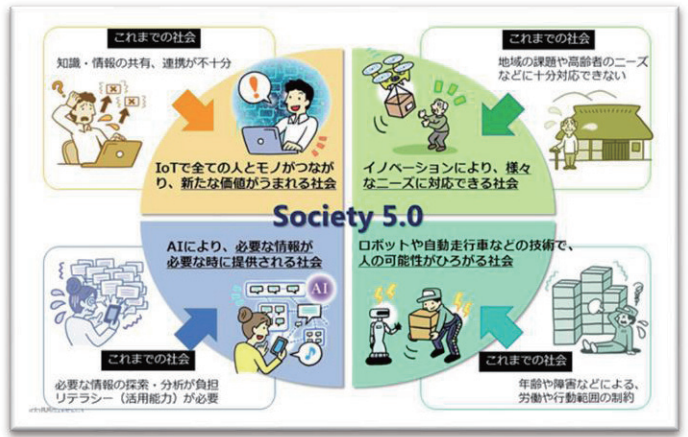
1. 研究主題および副主題

授業力の向上と校内研究の活性化 ～学びに向かう力の育成を通して～

2. 主題設定の理由

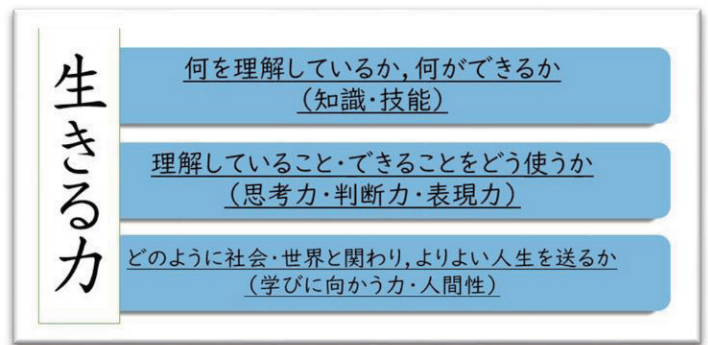
(1) 子供たちの生きる社会

日々、急速な変化を遂げている現代社会。今の子どもたちが成人する頃には、現在ある職業がAIに置きかわるなど、社会構造が大きく変わることが予測されている。内閣府の第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿としてSociety5.0が提唱された。今を生きる子供たちが、多様な人々と協働しながら、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な未来社会の造り手となるために必要な能力、すなわち「生きる力」を確実に育てることが学校教育で急務となっている。



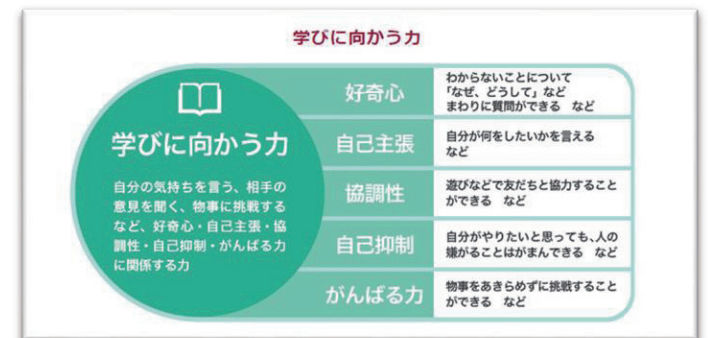
(2) 求められる「生きる力」

平成28年12月の中央教育審議会答申においては、「生きる力」に関して言及された。新しい時代に必要とされる資質能力は、右の①【知識・技能】、②【思考力・判断力・表現力】、③【学びに向かう力・人間性】の3つの柱に整理された。学習指導要領でも、3つの柱で整理される形で、その内容が改訂された。令和2年度には小学校、令和3年度には中学校で全面実施され、各学校の教育課程の中で実現が求められている。

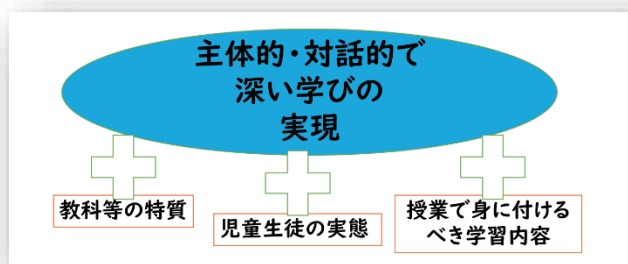


(3) 「学びに向かう力」とは

この3つの柱のうち、特に、③【学びに向かう力、人間力等】に整理される情意や態度に関わる資質・能力は、知識・技能や思考力・判断力・表現力をどのような方向性で働かしているかを決定づける重要な要素であるとされている。例えば、ベネッセ教育総合研究所では、【学びに向かう力】を右の「好奇心」「自己主張」「協調性」「自己抑制」「がんばる力」の5つの項目に整理している。これらの資質・能力は、「メタ認知」に関わる力を含むものであるとされる。



(4) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
中央教育審議会答申には、学びに向かう力などの資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。授業づくりにおいては、教科等の特質を踏まえ、それぞれの授業で身に付けるべき学習内容や目の前の児童生徒の実態に応じて、これらの視点を手掛かりに、質の高い授業を実現することが求められる。



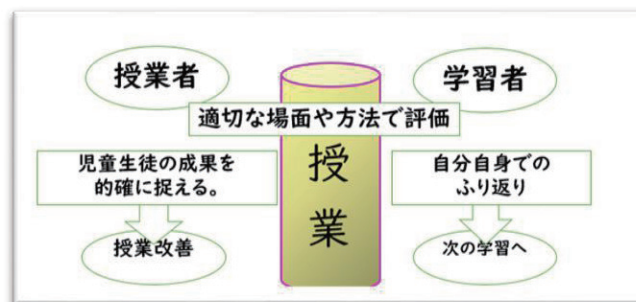
【主体的な学び】・・学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

【対話的な学び】・・子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ、自己の考え方を広げ深める。

【深い学び】・・・・・各教科等で習得した概念や考え方を活用したり、「見方・考え方」をはたらかせ問いを見出したり、解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする。

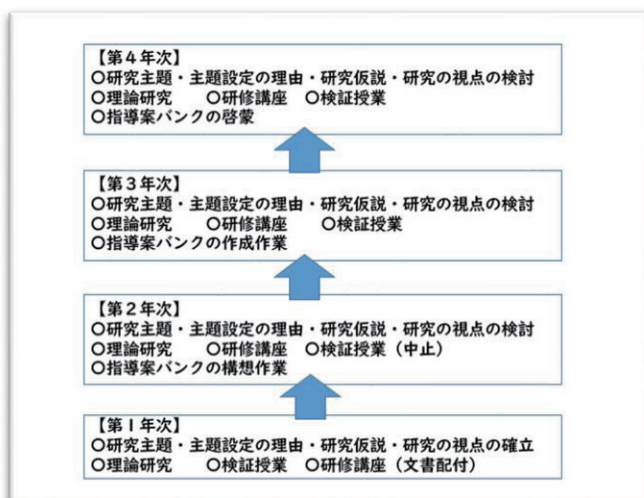
(5) 指導と評価の一体化

主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善のために、学習評価の工夫改善も求められている。学習評価の在り方は、児童生徒の学習の成果を的確に捉え、教師が授業の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも重要である。学習の過程や成果を適切に評価することは、学習指導の改善や学習意欲の向上を図るために不可欠なものである。



(6) 研究の方向性

将来、成人した児童生徒が未来社会を力強く生き抜いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力、他と関わり合い学び合う中で、新たな価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく力が必要とされる。そのような力を育成するためには、質の高い授業の実践が不可欠である。これらを踏まえ、後志教育研修センター調査研究委員会では、「授業力の向上と校内研修の活性化 ~学びに向かう力の育成~」という研究主題のもと、4年次計画3年目の研究推進に取り組んでいく。特に、見通しを持てる単元構成や課題設定の在り方、板書型指導案を活用した1単位時間の授業づくりについて研究・推進を行うとともに、後志管内各校に組織的・計画的な校内研修の進め方の指針を提案していく。さらに、今年度は、これまで構想してきた指導案バンクを始動させ、様々な授業実践を後志管内の先生方に広めていく役割を担いたい。



3. 研究仮説

《仮説1》児童生徒の学びに向かう力を育成する学習活動の実現を目指す授業改善の指針を示すことで、後志管内各校の校内研究推進のニーズに応えることができる。

学びに向かう力は、主体的・対話的で深い学びを通して、育成されるであろう。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を促進するためには、各校、あるいは、個々の教員が参考にできるよう、具体的な授業改善の指針を示すことが有効であると考え。目指す学びを具現化した児童生徒の学びの姿として示すことで、より分かりやすいものになる。具体的で明瞭な指針が示され、校内研究で活用されれば、個々の教員の授業改善も進み、より多くの教室でより質の高い授業を実現できると考える。

《仮説2》組織的・計画的な校内研究体制の確立、管内連携を目指した指導案バンクの作成を推進することで、協働性と個々の資質・能力の向上を図ることができる。

教員の資質・能力に関する中央教育審議会答申(平成27年12月)では、「教員は学校で育つもの」とされ、同僚の教員とともに学び合う校内研修の充実や、自律的、主体的に行う研修の重要性とそれらに対する支援の必要性が指摘されている。組織的・計画的な校内研究体制を確立することで、各校での校内研修が活性化すると考えられる。また、いつでもどこでも誰でもが利用できる指導案バンクの実現によって、自主的な研修の充実の促進を図ることができる。個々の教員の必要性に応じて活用できるコンテンツは、「教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員」(北海道における「求める教員像」)に必要とされるものである。

4. 研究の視点

《視点1》学びに向かう力を育成するための授業改善

- 主体的・対話的で深い学びを目指した授業【研修講座「学習指導(授業改善)」】
- 若手教員のための1時間の授業づくり【研修講座「学習指導(授業づくり)」】
- センター所員の所属校での検証授業の実施

《視点2》実践的指導力の向上を図るための教職員研修の工夫・改善

- 組織的な校内研究体制の確立とワークショップ型研修の推進【研修講座「校内研修」】
- 管内連携を目指した指導案バンクの作成

【参考文献】

- 内閣府 HP 「科学技術政策」 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/, 2023年1月閲覧
- ベネッセ教育総合研究所 HP 「まなびのかたち【学びに向かう挑戦】」「幼児期の家庭教育国際調査」
https://berd.benesse.jp/special/manabi/manabi_22.php, 2023年1月閲覧
- 文部科学省 小学校学習指導要領解説総編, 平成29年7月
- 吉富芳正編著『「社会に開かれた教育課程」と新しい学校づくり』ぎょうせい, 2017年
- 北海道教育委員会「北海道における教員育成指標」, 2019年3月

5. 研究計画

(1) 年次計画と実際

【第3年次】令和4年度（2022年度）「理論研究と実践」

- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の検討
- 理論研修と資料収集により、具現化した授業構築の提案
- 検証授業
- 研修講座「学習指導（授業づくり・授業改善）」「校内研修」の資料作成・講座の運営
- 指導案バンク作成作業
- 調査研究事業報告会に向けた準備、発表研究紀要の作成



研究の視点の具現化のために、調査研究委員会では、上記の3本の柱を立てて、研究を推進していく。いずれも後志管内各校に、本研究の情報発信が可能な方策であると考えたためである。

「研修講座」については、センター所員が講師となり、本研究の内容を基盤とした3つの講座を開講し、管内の教職員の授業力向上や、校内研修の活性化が図れるような発信を行っていく。また、研修講座で発信したことや理論研究を行ったことが、『学びに向かう力を育成する』授業となるかどうかを検証すべく、「検証授業」を実施する。

また、研修講座内の授業や検証授業だけではなく、所員が所属する学校から日常授業に生かせる学習指導案や板書型指導案などを「しりべし指導案バンク」というクラウドフォルダ（Microsoft OneDrive）に収集し、管内の先生方が閲覧できるよう始動していきたい。

(2) 推進計画

① 所員による研修講座

6月1日 (水)	研修講座「校内研修」 ～全員参加の校内研修を目指して～ 対象：分掌チーフ・ミドルリーダー層（5年程度～）、研究担当者 ○研究主題解決のための研究仮説研究計画の立て方、まとめ方など ☆担当所員 ◎田口、森本、高田
6月14日 (火)	研修講座「学習指導（授業づくり）」 ～明日の授業が楽しみになる！単位時間の授業づくり～ 対象：初任段階層（1～5年程度の経験年数） ○1単位時間の授業づくり ☆担当所員 ◎武田、中村、山本
9月20日 (火)	研修講座「学習指導（授業改善）」 ～児童・生徒の学びに向かう力の育成を目指して～ 対象：分掌チーフ・ミドルリーダー層（5年程度～） ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について ○学習評価の改善について ☆担当所員 ◎富樫、千葉、菊地

② 検証授業 「学びに向かう力」を育成するための授業改善

11月1日 仁木町立仁木小学校 5年1組 国語科 山内 智志教諭

③ 指導案バンク

4月～9月：所員が所属する学校から学習指導案、板書型指導案、単元計画などを収集

10月～：後志管内全小中学校にパンフレット配付

アドレスやQRコードにてリンクにアクセスできるようにする。

※今後、所員が所属する学校だけでなく、他の学校からも日常授業改善で生かせるような指導案を収集し、随時アップしていく。

6. 研究構造図

22世紀まで生きる子どもたちに

- ・ Society 5.0～持続可能な未来社会の創り手として、技術革新や社会の変革を生み出していく力
- ・ 「生きる力」～3つの柱 知識・技能／思考力・判断力・表現力／学びに向かう力，人間性等
- ・ 学習指導要領の実施～主体的・対話的で深い学び／指導と評価の一体化

学校現場のニーズ

研修センターに期待される役割

授業力の向上と校内研究の活性化

～学びに向かう力の育成を通して～

研究体制・方法

・ 検証授業 ・ 理論研究 ・ 研修講座「学習指導」「校内研修」 ・ 指導案バンク

《視点1》

学びに向かう力を育成するための授業改善

- (1) 主体的・対話的で深い学びを
目指した授業改善
【研修講座「学習指導(授業改善)」】
- (2) 若手教員のための、1時間の授業づくり
【研修講座「学習指導(授業づくり)」】
- (3) センター所員の所属校での検証授業の実施

《視点2》

実践的指導力の向上を図るための教員 研修の工夫・改善

- (1) 組織的な校内研究体制の確立と
ワークショップ型研修の推進
【研修講座「校内研修」】
- (2) 管内連携を目指した指導案バンクの
作成

《仮説1》

児童生徒の学びに向かう力を育成する学習活動の実現を目指す授業改善の指針を示すことで、後志管内各校の校内研究推進のニーズに応えることができる。

《仮説2》

組織的な校内研究体制の確立、管内連携を目指した指導案バンクの作成を推進することで、協働性と個々の資質能力向上を図ることができる。

7. 今年度の調査研究委員（所員）の経過報告

回	日時	名称	内容	備考
1	5月11日(金) 所員会議後	第1回 調査研究委員会	①推進委員長、副委員長の選出 ②研究主題の確認 ③年間計画の作成 ④研修講座講師決定→講座内容の検討→ 事前研日程	研修センター 第一研修室
2	5月23日(月)	第2回 調査研究委員会 (校内研修)	①研修講座「校内研修」 事前研修講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。	研修センター 研究室 ◎田口・高田・ 森本
4	6月1日(水)	研修講座 「校内研修」 第4回 調査研究委員会	①運営、講師、参加 ①研修講座「校内研修」の事後研修	講師 ◎田口・高田・ 森本 研修センター 第一研修室
3	6月2日(木)	第3回 調査研究委員会 (授業づくり)	①研修講座「学習指導(授業づくり)」 事前研修講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。	研修センター 研究室 ◎武田・山本・ 中村
5	6月14日(火)	研修講座 「学習指導 (授業づくり)」 第5回 調査研究委員会	①運営、講師、参加 ※参加の都合のつく所員は参加。 ①研修講座「学習指導(授業づくり)」 の事後研修	講師 ◎武田・山本・ 中村 岩内東小学校
6	7月29日(金)	道研連夏季研修会 【オンライン】	①学習の評価について ②ICTについて	菊地・森本・ 千葉
7	8月2日(火) 教育講演会前	第6回 調査研究委員会 (授業改善) 後志教育講演会	①研修講座「学習指導(授業改善)」 事前研修 講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。 ①講演会準備等	研修センター 研究室 ◎富樫・菊地・ 千葉
8	9月2日(金)	道研連共同研究 発表会 【オンライン】	第17次共同研究発表会	原田・鶴見・ 富樫・田口・ 武田・中村・ 菊地・森本・ 山本・千葉
9	9月20日(火)	研修講座 「学習指導 (授業改善)」 第7回 調査研究委員会	①運営、講師、参加 ※参加の都合のつく所員は参加。 ①研修講座「学習指導(授業改善)」の 事後研修	講師 ◎富樫・菊地・ 千葉 寿都小学校

回	日時	名称	内容	備考
10	10月27(木) 28(金)	全教連研究協議会 兼道研連研究発表 大会 【オンライン】	「令和の日本型学校教育」実現に向けた学 校と教職員への支援の在り方	富樫・田口・ 鶴見
11	11月1日(火)	検証授業① 第8回 調査研究委員会	①授業検証 (仁木小 山内教諭5年1組 国語科) ②事後研	仁木小学校
12	11月21日(月)	第9回 調査研究委員会	①調査研究事業報告会に向けた報告内容 検討、役割分担 ②研究紀要骨子、役割分担の確認	
13	11月28日(月)	道研連冬季研修会 【オンライン】	①学習の評価について ②ICTについて	原田・鶴見・ 富樫・田口・ 高田
14	1月12日(木)	第10回 調査研究委員会 調査研究事業 報告会	①調査研究事業報告会の準備 ①プレゼン発表 ②運営、参加	進行:鶴見 発表:富樫・田口
15	1月16日(月)~	教育展望セミナー 【オンライン】	変革の時代の学校教育を展望するⅡ ~北海道の未来をつなぐ 主体的な学びを 求めて~	原田・鶴見・ 富樫・田口・ 森・武田・ 高田・中村・ 菊地・森本・ 千葉
16	2月14日(火) 所員会議後	第11回 調査研究委員会	①研究紀要原稿検討	
17	クラウド		①研究紀要原稿の最終チェック	

【第2章】

研究の内容

I 研修講座

研修講座 校内研修

講義 I 研究主題解決に向けて

1. 研究主題解決のための研究仮説や研究計画の立て方

① 校内研修とは

校内研修：学校で「研究」と「修養」をおこなうこと。

研究…子どもの指導法や指導内容について、工夫・改善していくこと。

修養…教師が、知識を高め、品性を磨き、自己の人格形成に努めること。

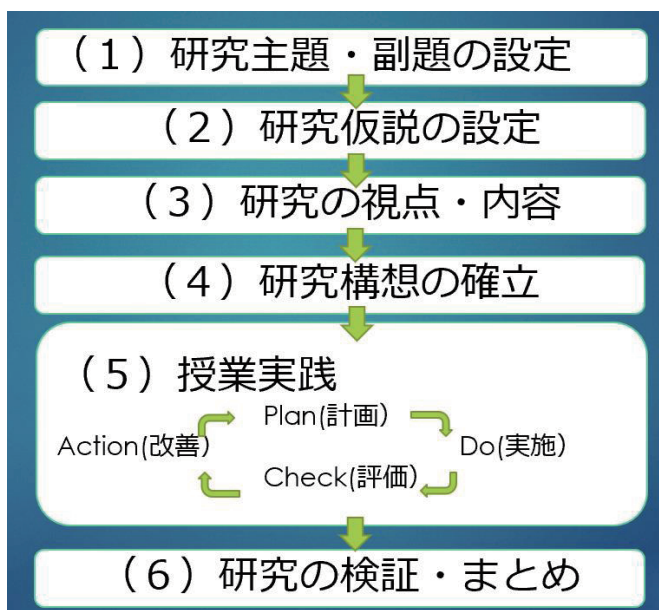
※校内研修は、地方公務員法、教育基本法、教育公務員特例法により、教員の権利と義務であることが示されている。

② 校内研修の意義

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 学校の教育目標の具現化を図る。 | 2. 教育課程の改善を図る。 |
| 3. 教師の指導力向上を図る。 | 4. 子どもの望ましい発達を促す。 |

最大の意義！

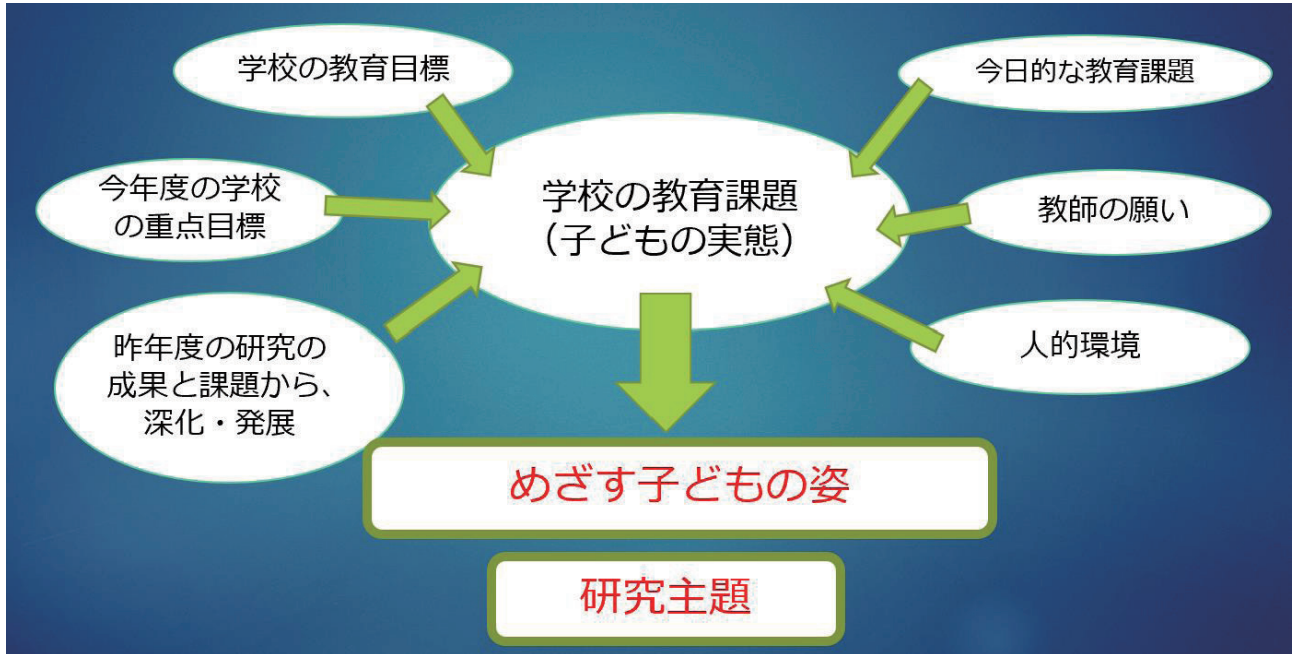
③ 校内研究を進めるための手順



(1) 研究主題・副題の設定
(2) 研究仮説の設定
に関しては、特に重要であるため、
熟考していく必要がある。

④ 研究主題・副題の設定

研究主題の設定にあたり、一番大切なのは自校の子供の実態を把握し、研究を通してどんな子どもに育てたいかを考えること。その上で、学校の教育目標や今日的な教育課題など、いくつかの要素を取り入れると良い。



研究主題・副題を設定する際の3つの要素

目的…めざす子どもの姿（どんな力をつけさせたいか。何ができるようになってほしいか。）

対象…研究の領域・分野（どの教科で行うのか。どういう場面か。）

内容・方法…研究の手立て（どのような方法でめざす子どもの姿に迫っていくか。）

研究主題・副題設定の例

例1

主題
自分の考えを豊かに表現する子の育成

①目的

副題
～②国語科における③言語活動の指導の工夫・改善を通して～

②対象

③内容・方法

主語は教師

例2

主題

①目的

①豊かな心で人とかかわる力をはぐくむ

②対象

②道徳教育の充実

副題

～③心に響く体験活動との関連を図った道徳の授業の工夫を通して～

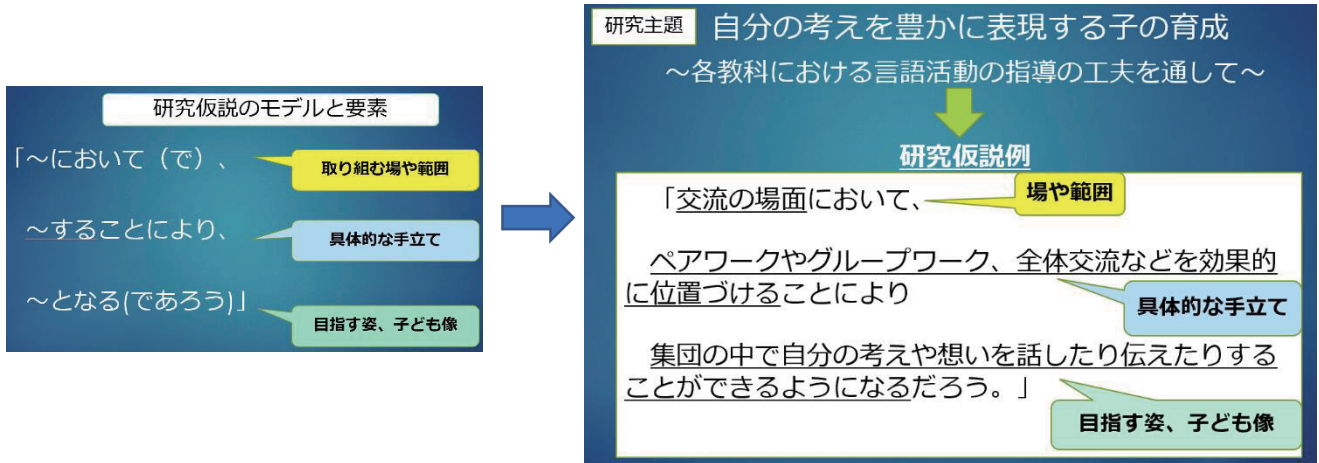
③内容・方法

※どんな目的のために、どんな時にどんな方法で研究を進めていくのかというのが一目でわかるように主題、副題の文言を整理するとよい。

⑤ 研究仮説の設定

ポイント

「めざす子どもの姿」 = 「研究主題」に迫るために
「取り組む場・範囲・手立て」を具体的かつ明確に示す。



※言葉を定義することが大切。副題の「言語活動」には、本来書くことも含まれる。話し合い活動によって主題に迫りたいのであれば、仮説では具体的に「ペアワークやグループワーク、全体交流」などと定義する。そうすることで、共通認識に立って研究を進めることができる。

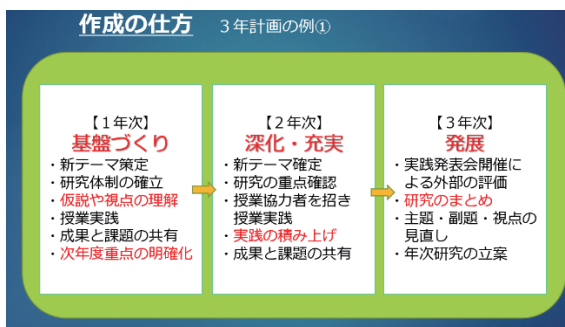
⑥ 研究推進計画の作成

- 研究課題を解決する期間や研究課程の各段階の手順、作業内容などを明確にする。

留意点

- ・ 学校教育目標、教育の全体計画との関連を図る。
- ・ 研究推進計画と研究年間計画との関連を明らかにし、具体的な見通しを立てる。
- ・ 計画全体について全職員が共通理解できるよう整理する。
- ・ 必要に応じて計画の見直しができるような柔軟性を持たせる。

研究推進計画の例



学期	1年次 研究計画の構想と立案	2年次 実践研究の蓄積と検証	3年次 実践研究の検証と発展
1学期	◇研究課題の把握 ・保護者や教師へのアンケートによる把握 ・学力調査などによる子どもの実態把握	◇推進計画の見直し	◇推進計画の見直し
2学期	◇研究主題の設定 ・実態把握のまとめと分析	◇研究仮説の修正 ・1年次の課題を踏まえた修正 ・(手立てでの修正)	◇研究内容の修正 ・修正した仮説に基づく研究内容の具体化
	◇研究内容の構想 ◇検証計画の樹立	◇研究内容の修正 ・修正した仮説に基づく研究内容の具体化	◇検証のための実践 ・公開研究会の実施
3学期	◇検証のための実践 ・低・中・高、ブロック毎の授業研究 ・全校での授業研究	◇検証のための実論 ・全校での授業公開	◇研究結果の処理 ・研究記事の作成
	◇研究結果の整理 ・授業記録による成果と課題の把握	◇研究結果の整理 ・授業記録による成果と課題の把握	◇研究全体のまとめ ・研究のまとめと整理
学年末	◇初年度のまとめ (成果の発表)	◇2年次のまとめ ・学力調査による成果の把握	◇次の研究の方向性の確認

※計画の年数は3年が目安。柔軟性をもって臨機応変に改善を図りながら主題に迫ることが大切。

2. まとめ方と次年度へのつなげ方

① 研究仮説の検証

事前・事後調査（アンケート、見取り、学力検査等）

+

日常の授業や研究授業等でのデータ収集



工夫や手立てが効果的だったか

仮説の有効性を検証

子どもの成長の役に立ったか

② まとめ方と次年度へのつなげ方

校内研究の結論は「成果」と「課題」

「成果」「課題」を把握する方法（例）

- ・ 教師から見た子どもの様子や変容（アンケートや職員間の交流などで把握する）
- ・ 研究討議による教師の指導方法で よかった点→成果 改善点→課題 とする
- ・ 子どもに対する授業評価の結果で 数値が高い→成果 改善点→課題 とする など

※何をもって「成果」「課題」とするかについては、あらかじめ考えておくことが大切。

○「成果」を次年度につなげる

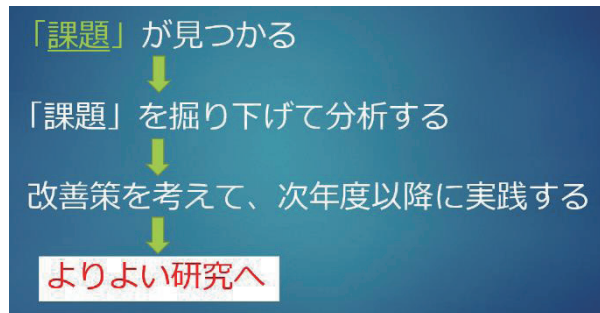


成功体験を重ね、意欲を高める。

○「課題」を次年度につなげる



課題を分析し、改善策を考え、次年度に実践を行う。



※特に「課題」は、見つかるだけで相当な価値があるため、決して悪いものではない。

3年次計画の1, 2年次に「課題」が見つければ、計画を修正してより主題に迫ることができるチャンスととらえられる。

③ 資料の保存（研究紀要等）

資料を整理、保存する目的は、よりよい研究を続けるため。

紀要に残しておくべきもの（例）

- ・ 研究の計画
- ・ 研究授業や研究発表会にかかわる資料
（指導案・ワークシート・事後検討の記録・授業のビデオ・写真 など）
- ・ アンケート等の質問項目と集計結果

電子データ化で、時間・場所・コスト・負担を削減！！

3. 研究討議とファシリテーター

① 研究討議の方法

5つの討議の型

- ①指導案活用型 ②2軸型（+KJ法） ③個人プレゼン型 ④ディベート型 ⑤代表者討議型

※「1. 指導案活用型」「2. 2軸型（+KJ法）」は、よく行われている討議の型である。

1, 指導案活用型

- ・ 授業中の気づきを付箋に書いておき、拡大印刷した指導案に貼っていく
- ・ 時系列で付箋が並ぶので、学習活動別の協議がやりやすい
- ・ 肯定的な意見は青付箋、否定的な意見は赤付箋などと色分けをして行うとよい。

○準備するもの

- ・ 拡大印刷した指導案
- ・ 色分けした付箋
- ・ マジックなどのペン

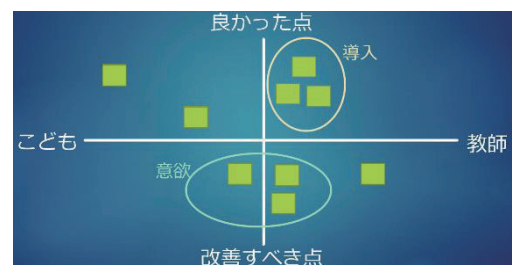
○準備するもの

- ・ 縦軸、横軸の書かれた模造紙
- ・ 付箋 ・ マジックなどのペン

2, 2軸型（+KJ法）

- ・ 授業を見て、1つの付箋に1つの事柄（意見・考え）を書いておく。
- ・ 大きめの紙に関数のグラフのようにx軸、y軸を書き、区切られた4か所に付箋をおいて協議する。
- ・ それぞれの軸は「生徒・教師」「良かった点・改善すべき点」など決めておく。
- ・ 付箋に書かれたものをカテゴリにまとめる。

↓イメージ図



豆知識

KJ法は文化人類学者の川喜田二郎さんという方がデータをまとめるために考案した手法。つまりKJは、考案者のイニシャル。

技術向上の秘訣は、
たくさん経験を積むこと！

② ファシリテーターとは

ファシリテーター：目的に向かって良い会議へと導く進行役。

グループ討議の課題

- ・意見は出るものの言っぱなし
- ・グループの構成メンバーによる偏り



ファシリテーターが機能すれば
これらの課題はなくなる！

③ ファシリテーターの役割

事前

1. どのような型でワークショップ研修を行うか、研修係と打ち合わせを行う。
2. 会場の配置や研修で使うものを準備する。
→付箋・マジックペン・模造紙・デジタルカメラ・タイマーなどをまとめておくとよい。
3. ねらいを持ったグループ編成を行う。
→経験年数や学年団、教科などを考慮する。

協議中

1. 意見を出しやすい雰囲気作りを行う。
2. 積極的に話を聞き、話題を広げられるような質問や声掛けを行う。
3. 中立の立場で発言することを心がけ、グループのメンバーが安心して発言できるように共感したり、守ったりする。

協議後

1. 記録や整理、要約を行い、次につなげられるように資料として残す。

4. まとめ

研究主題解決のための
研究仮説や研究計画の立て方
&
まとめ方と次年度へのつなげ方

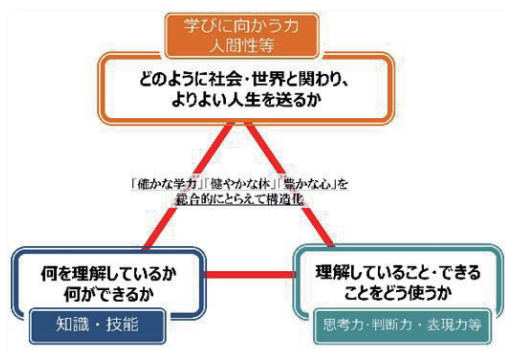
- ① 目指す子どもの姿をイメージ
- ② 研究仮説は具体的かつ明確に
- ③ 研究計画は柔軟に
- ④ 「成果」と「課題」を大切に

1. 客観的な立場に立つ
2. 参加者を主役にする
3. 場の状態を把握する
4. 場の状態に合わせて介入する

ファシリテーターの心得

講義2 「学びに向かう力」研修パッケージの提案

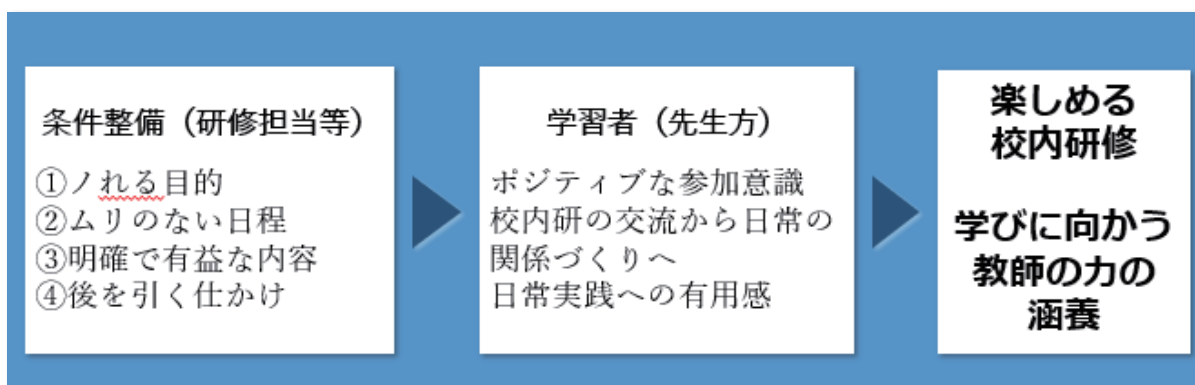
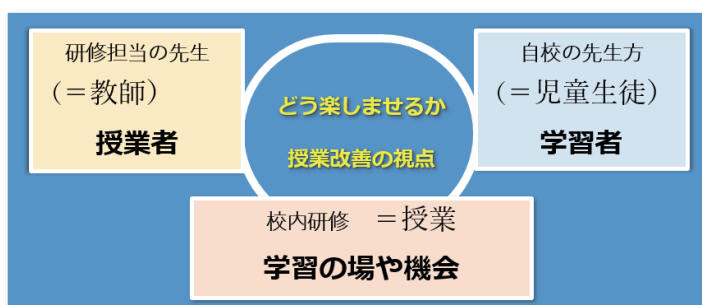
1. 「学びに向かう力」と校内研修



児童生徒に「学びに向かう力、人間性等」を涵養するためには、教師の指導・指示で動くことだけではなく、むしろ自主性や好奇心・探求心を伸ばしたり、友達と協力したりすることが必要です。「やらされる」勉強ではなく、「自ら取り組む」学習へと転換する必要があります。また、その学習活動には、様々な「楽しさ」が内包されていなければなりません。児童生徒が学ぶことに対する楽しさを見いだせれば、「学びに向かう力、人間性等」を高める第一歩が踏み出せます。

では、話を教員同士の「校内研修」に置き換えてみましょう。

私たちは、自分の指導技量を高めるため、その効果を同僚と共有するため、学校全体で連携して教育活動に当たるため等、様々な点から校内研修を実施しています。普段行っている校内研修は自ら取り組む学習の場や機会となっているのでしょうか。研修担当の先生を「授業者」とすると、自校の先生方は「学習者」に当たります。学習者たる先生方をどのように主体的に取り組んでもらい、少しでも楽しみながら実践力や実践意欲を高めてもらうかが鍵となります。



課題や主題が明確で、各世代の先生方が前向きに参加できるように声をかけ、日程や時間設定に無理がなく、事前の準備や負担が軽く、実践的な研修内容であれば、学習者たる先生方はポジティブな参加意識を抱いてくれます。このような好循環を生むことが、校内研修を行う上での環境づくりとして必要となると考えます。

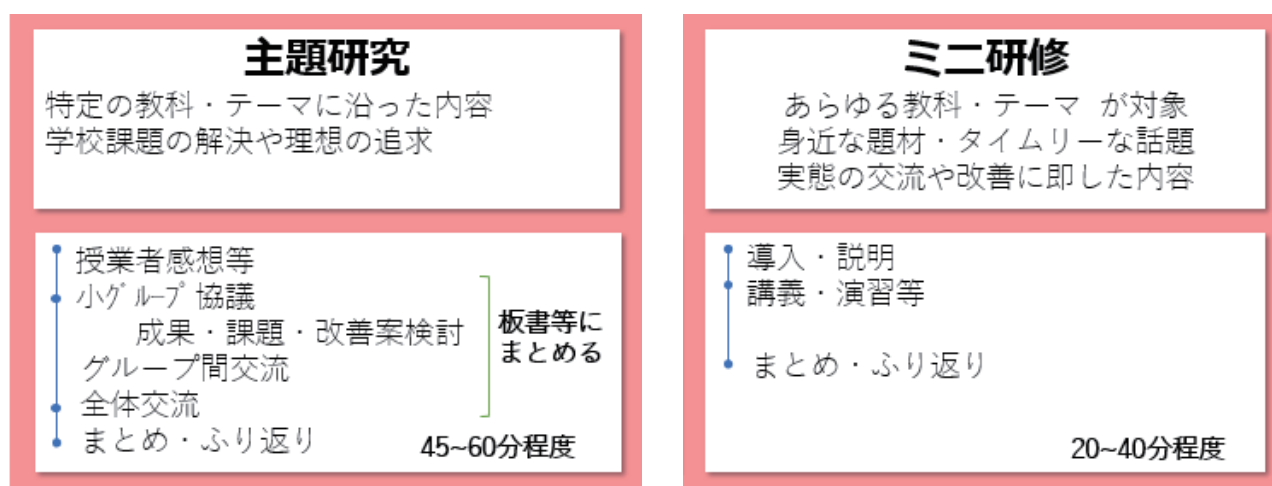
2. 「校内研修のパッケージ化」の具体

(1) 研修の内容とゴールを明確にする

従前より脈々と受け継がれている校内研究の形「主題研究」と、あらゆる教科やテーマを対象とした自由な内容で行われる研修「ミニ研修」の二つに分けると、その内容や目指すゴールが差別化しやすくなります。

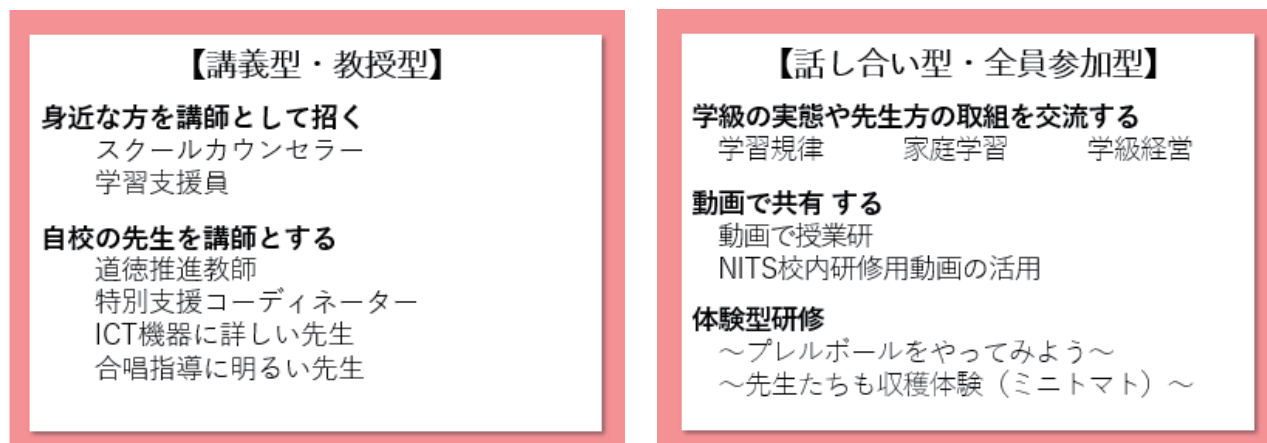
主題研究では、各校で設定される仮設やテーマに合わせて検証・改善を行っていきませんが、その過程では、できるだけ時間設定をコンパクトにしたり、協議の持ち方をより効率化したりすることによって、短時間で高い効果や成果を期待できる形に変えていく必要があります。

一方、幅広く自由な内容で行われるミニ研修は、主題研究だけではすくい上げきれない悩みや今日的な課題にも対応することができるため、取り入れる学校が増えてきています。ミニ研修では、できるだけ短時間で終わられる内容にし、楽しみながら学んだり交流したりすることで、参加する先生方の主体性が高まり、学習効果を期待できるものになります。



(2) ミニ研修パッケージの紹介

ミニ研修の内容として下図のような例が挙げられます。実施に当たっては、自校の先生方にアンケートを取ったり、研修担当の先生が必要と思うものに取り組んだりして、先生方が「学べてよかった」「次はあれをやりたい」と思えるような内容にできるとよいでしょう。



ミニ研④ 歌声へんしん大作戦！

8月29日(木)の研修では、来たる学芸会に向けての学習会を行いました。横澤先生を講師にお願いし、これまでの数多くの指導経験をもとにした音楽指導、とりわけ合唱の指導についてご教授いただきました。横澤先生のお話は、楽しさを感じさせる授業の導入での工夫、地声と頭声の出し方のヒント、合唱指導から育てたい心や意識など、授業で使える工夫がいろいろの時間となりました。



気持ちをそろえて 音色をそろえる

その目的を明確にして
「息の音(地声)」で「口の上」を鍛える。「呼吸は気管の中」を鍛える
「ヒューマニタリ」の発音で「口の上」を鍛える。(ヒューマニタリは「口の上」を鍛える)

仁木小の子ども達は「ウラ声」が強いのだそうです。教師の声かけがあるだけで子どもの意識が変わり、よい声になっていくそうです。簡単なことですが、どのような意識で指導にあたるかが大切ということを感じました。

ミニ研② 家庭学習 TABLE STYLEで

7月4日(火)に行ったミニ研のテーマは、『家庭学習』でした。

それぞれの学年が、発達段階や学習の様子に合わせて、どの学年でも行っていることは知っていても、その具体はお互いにあまり知らなかったことの一つが、この家庭学習ではないでしょうか。そんな、今更取り立てて聞くほどでもないけど、知っていたら有益だ、という内容をスポットを当てたのも、ミニ研のよさではないでしょうか。

このミニ研で、仁木小のオリジナル研修形態が形作られることとなりました。それは、6年教室だからこその偶然の産物、『TABLE STYLE(テーブルスタイル)』です。たまたま6年生が使っていた卓球台に家庭学習ノートを広げて、そのまま研修を始めてみたら、なんだか話しやすく見やすく、いい感じになっていたのです。



ミニ研⑤ 理論からつなぐ仁木小の実践

10月30日(火)のミニ研は、これまでの校内研修で積み重ねてきた成果や課題を11月の研究授業や日々の実践につなぐことができたいなと考え、理論研修を取り入れてみました。

「素人が百しゃべるよりも、本物を見た方がいい」ということで、今回は、独立行政法人教職員支援機構のサイトにアップされている校内研修用動画を見ていただきました。

『新しい学習指導要領において期待される学び』では、「課題設定」「見通し」「学び合い」「振り返り」といった各場面での授業改善のポイントが解説されていました。

理論的な裏付けを得ることも大事ですが、自分達の実際の授業でどのようにそれを表していくかが大切になってきます。今後の算数科の授業づくりにおいては、課題解決型(A型)、習得型(B型)、習熟型(C型)のそれぞれに合わせた「課題設定」や課題を解決するための「交流」「学び合い」をどのように位置づ



新しい学習指導要領において期待される学び：校内研修シリーズ No4

講義型・教授型のミニ研修では、身近な方や自校の先生に少しだけ手間と時間をかけてもらい、講師役になってもらうのがおすすめです。講師となった方の隠れた知識や経験を伝えてもらうことで、自校で手軽に見識を広げたり技術を得たりすることができます。また、講師の先生のことをより深く知ることになりますので、職場内での会話や相談などにつながり、同僚性が高まることも期待されます。

話し合い型・全員参加型のミニ研修では、日ごろから指導のしかた等で悩んでいる事柄や全校で指導の在り方をそろえたい内容など、自校の課題や取り上げたいテーマに応じて、先生方どうしが話し合ったり交流したりすることを目的とします。そこで生まれた気づきやヒントを授業実践等に生かしてもらうことをねらいます。左図では、各学年学級の家庭学習(宿題や自主学習)の取組状況を交流するため、児童が実際に使用しているノートやプリントを持ち寄り、どのようなねらいでどのように取り組ませているかを交流しました。この交流を契機に、小学校6年間での系統立てた家庭学習への取り組みせ方について理解を深め、学校全体の取組へと発展させることができました。

また、全員が参加しやすく、学習効果を上げやすい取り組み例として研修動画の活用もおすすめします。独立行政法人 教職員支援機構(NITS)が配信しているオンライン講座は「校内研修シリーズ」など様々なジャンルがそろっており、自校の課題やテーマに沿った研修教材が見つかるはず。ミニ研修としてねらいを焦点化して取り組む際の一つのアイデアとして有効です。

20分で学べる！校内研修にも活用できる！
オンライン講座
校内研修シリーズ 第2弾 30本を配信予定

いつでもどこでも！
校内研修でも！

もっとうれしい！

交流・演習

～「校内研修」における自身の課題・自校の課題の交流～

最後の交流・演習では、校内研修に関わる受講者自身の課題や自校の抱える課題についての交流を行った。

右図のような事前アンケートを行い、課題別のグループ分けをしたことで、話し合いを活発に進めることができた。受講者の先生方から出された課題としては、大きく分けて以下の三つが挙げられた。

- よりよい研修の時間について
- 研修の広げ方
- 校内研修の基本

これらを基にグループ分けを行い、テーマごとに話し合いを進めた。交流を進めていくうちに、自校の課題がより具体的に捉えられるようになっていたり、お互いの経験や情報を共有することで自校の課題解決への糸口になったりするなど、充実した時間となった。所員からは、ワークショップ型校内研修でよく挙げられる課題について情報提供を考えていたが、予想

以上に受講者の話し合いが活発に行われていたため、資料の紹介程度にとどめ、交流の時間を十分に確保することに努めた。

交流の中で挙げられた話題として、

- 若い世代の先生をどう巻き込むか
- 職員間の取り組みの温度差
- 取り組みの成果の手応えについて
- 特別支援学級の研修での位置づけ
- 職員の異動に伴う研究の継続性
- 校内での指導の統一

など、多くの話題について話し合いが進められた。一朝一夕に解決しないものが多いものの、「異校種の意見を取り入れることで、得意分野で話し合うことができる」など、今後の研修のあり方について前向きな意見も聞くことができた。

ワークショップ型校内研修での課題と解決策について

ワークショップ型校内研修の課題

①活発に意見は出るが、言いつばなしになって終わる。

解決策

課題を出して終わりにせず、解決策を話し合う時間を十分に確保する。

年度の初めは時間を長めに、慣れてきたら短くしていくなどもアリ！

ワークショップ型校内研修の課題

①活発に意見は出るが、言いつばなしになって終わる。

解決策 発散技法と収束技法を組み合わせる。

マトリクス法+ KJ法

	視点1	視点2
よい点		
改善点		
解決策		



	視点1	視点2
よい点	○○○○ ○○○○	○○○○ ○○○○
改善点	●●●● ●●●●	●●●● ●●●●
解決策	□□□□ □□□□	□□□□ □□□□

ワークショップ型校内研修の課題

①活発に意見は出るが、言いつばなしになって終わる。

解決策

全体のファシリテーターとグループのファシリテーターで事前に打ち合わせを行い収束への見通しをもつ。

どのように収束していくかのシミュレーション。

予想される意見

話し合いの視点の確認

時間配分

ワークショップ型校内研修の課題

①活発に意見は出るが、言いつばなしになって終わる。

解決策

話し合いのルールを設定する。

積極的に意見を言う。

相手の意見を否定しない。

一人で話しすぎない。

課題を話すときは対案を出す。

ワークショップ型校内研修の課題

③準備に時間を要する。

解決策 研修グッズをまとめておく。



ワークショップ型校内研修の課題

④小グループの構成メンバーによる偏り

解決策 ・ねらいをもったグループ編成をする。

経験年数のバランスのよい配置

学年団・同教科でまとめる？分ける？

グループのファシリテーターは誰にお願いする？

研修講座 学習指導（授業づくり）

令和4年度 後志教育研修センター

学習指導（授業作り）

「1単位時間の授業作り」



6月14日（火）
余市町立黒川小学校
中村かずえ

子どもの発言
うまくさばけない

1～5年目の悩み

説明・交流
もっとうまく育てたい

どうやって
どこまで
拾えばいいの？



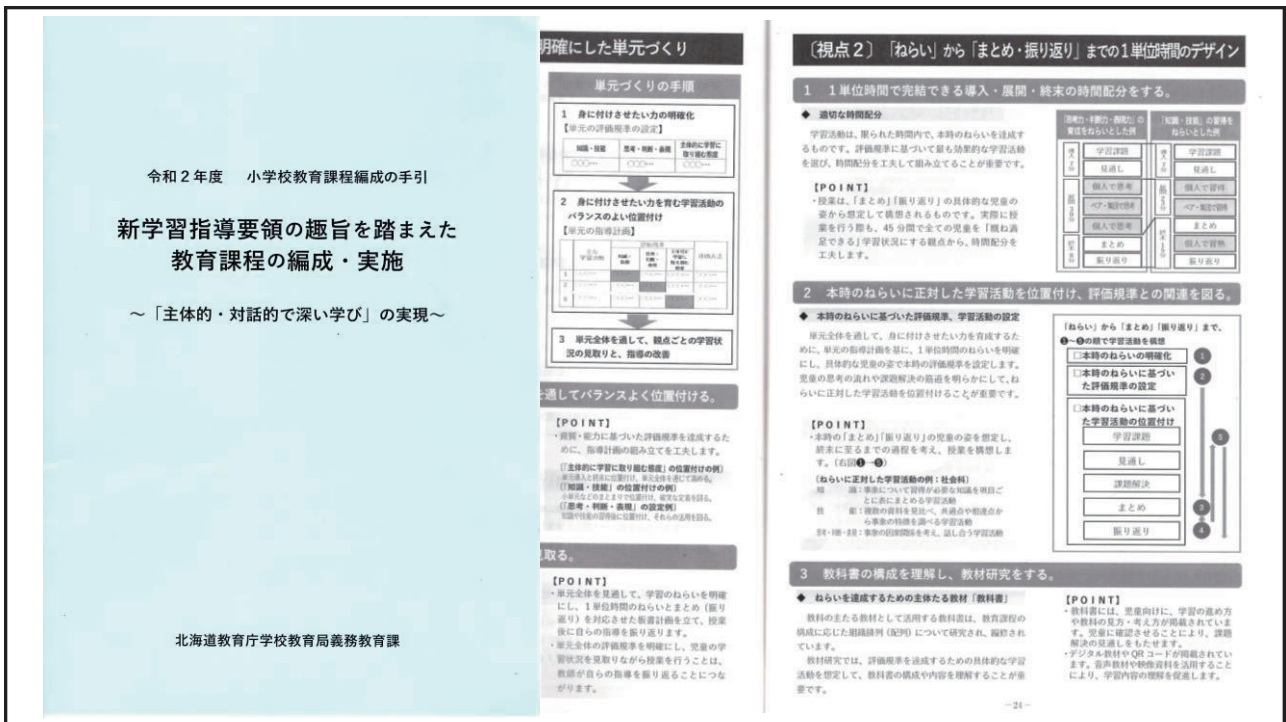
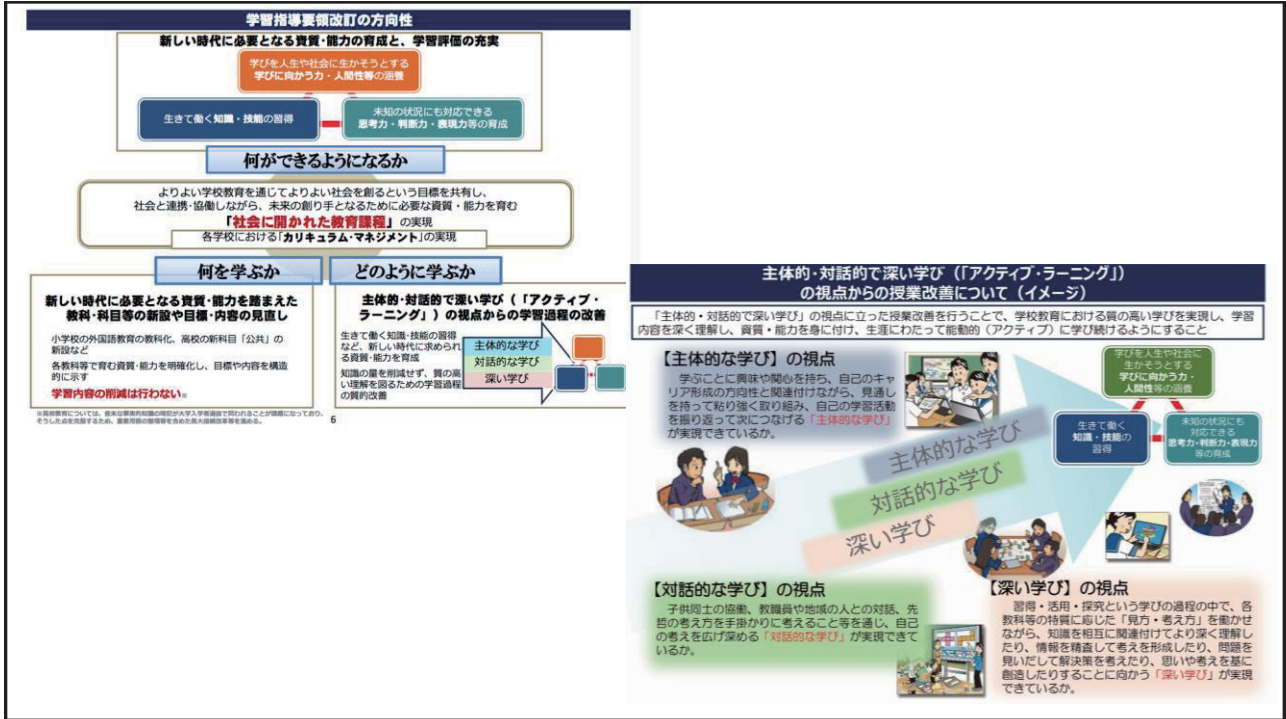
困っている子を
救ってあげたい

同じ子ばかり
発言してしまう

日々
追いつかない

これでいいの？

準備したのに
いまいち



タイムマネジメント

〔視点2〕 「ねらい」から「まとめ・振り返り」までの1単位時間のデザイン

1 1単位時間で完結できる導入・展開・終末の時間配分をする。

◆ 適切な時間配分

学習活動は、限られた時間内で、本時のねらいを達成するものです。評価規準に基づいて最も効果的な学習活動を選び、時間配分を工夫して組み立てることが重要です。

【POINT】

・授業は、「まとめ」「振り返り」の具体的な児童の姿から想定して構想されるものです。実際に授業を行う際も、45分間で全ての児童を「概ね満足できる」学習状況にする観点から、時間配分を工夫します。

「思考力・判断力・表現力」の育成をねらいとした例		「知識・技能」の習得をねらいとした例	
導入 7分	学習課題	導入 7分	学習課題
	見通し		見通し
展開 30分	個人で思考	展開 23分	個人で習得
	ペア・集団で思考		ペア・集団で習得
	個人で思考		まとめ
終末 8分	まとめ	終末 15分	個人で習熟
	振り返り		振り返り

(例)

- 1 前時をふり返る
- 2 問題をつかむ
- 3 課題
- 4 見通しをもつ
- 5 自分の考えをもつ(自力解決)
- 6 交流(ペア、グループ、全体)
- 7 まとめ
- 8 練習問題でたしかめる
- 9 ふり返る

「思考力・判断力・表現力」の育成をねらいとした例		「知識・技能」の習得をねらいとした例	
導入 7分	学習課題	導入 7分	学習課題
	見通し		見通し
展開 30分	個人で思考	展開 23分	個人で習得
	ペア・集団で思考		ペア・集団で習得
	個人で思考		まとめ
終末 8分	まとめ	終末 15分	個人で習熟
	振り返り		振り返り

ねらいに基づいた評価規準

2 本時のねらいに正対した学習活動を位置付け、評価規準との関連を図る。

◆ 本時のねらいに基づいた評価規準、学習活動の設定

単元全体を通して、身に付けさせたい力を育成するために、単元の指導計画を基に、1単位時間のねらいを明確にし、具体的な児童の姿で本時の評価規準を設定します。児童の思考の流れや課題解決の筋道を明らかにして、ねらいに正対した学習活動を位置付けることが重要です。

【POINT】

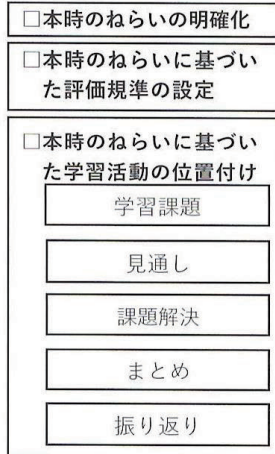
- ・本時の「まとめ」「振り返り」の児童の姿を想定し、終末に至るまでの過程を考え、授業を構想します。(右図①→⑤)

【ねらいに正対した学習活動の例：社会科】

- 知識：事象について習得が必要な知識を項目ごとに表にまとめる学習活動
- 技能：複数の資料を見比べ、共通点や相違点から事象の特徴を調べる学習活動
- 思考・判断・表現：事象の因果関係を考え、話し合う学習活動

「ねらい」から「まとめ」「振り返り」まで、

①～⑤の順で学習活動を構想



(例) 5年 算数「小数のかけ算」

評価規準

4 小数のかけ算

単元の目標と評価規準

単元の目標と評価規準

単元目標	評価規準	知識・技能	思考・判断・表現
1 整数×小数のかけ算の計算のしかたを理解する。	整数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解する。	整数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	整数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。
2 小数×整数のかけ算の計算のしかたを理解する。	小数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	小数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	小数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。
3 小数×小数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	小数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	小数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	小数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。
4 被乗数や乗数が10の位までの小数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	被乗数や乗数が10の位までの小数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	被乗数や乗数が10の位までの小数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	被乗数や乗数が10の位までの小数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。
5 乗数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	乗数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	乗数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	乗数が1より小さい数のかけ算の計算のしかたを理解し、筆算ができる。
6 1より小さい数をかけると積は被乗数よりも小さくなることを理解している。	1より小さい数をかけると積は被乗数よりも小さくなることを理解している。	1より小さい数をかけると積は被乗数よりも小さくなることを理解している。	1より小さい数をかけると積は被乗数よりも小さくなることを理解している。
7 辺の長さが小数でも、面積や体積の公式が適用できることを理解している。	辺の長さが小数でも、面積や体積の公式が適用できることを理解している。	辺の長さが小数でも、面積や体積の公式が適用できることを理解している。	辺の長さが小数でも、面積や体積の公式が適用できることを理解している。
8 交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。	交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。	交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。	交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。
9 学習内容を理解し、確認し、確実に身につける。	学習内容を理解し、確認し、確実に身につける。	学習内容を理解し、確認し、確実に身につける。	学習内容を理解し、確認し、確実に身につける。

	知識・技能	思考・判断・表現
① ② 整数×小数の意味と計算のしかたを理解する。	乗数が小数である場合の乗法の意味や計算のしかたを、乗数が整数である場合の計算の考え方をもとにして、理解している。	小数をかけることの意味や、乗数が小数である場合の乗法の計算のしかたを、小数の意味や既習の計算などをもとに図や式などをを用いて多面的に考えている。
③ 整数×純小数の計算のしかたを理解する。 【算数のミカタ】	乗数が1より小さい数の場合の乗法の意味や計算のしかたを理解している。	
④ 小数×小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	小数×小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
⑤ ⑥ 被乗数や乗数が10の位までの小数の乗法の計算のしかたを理解し、小数の乗法の筆算のしかたをまとめる。	被乗数が10の位までの小数の乗法や、乗数が10の位までの小数の乗法の筆算ができる。 乗数が小数である場合の乗法の筆算形式を統合的に理解している。	
⑦ 乗数と積の大きさの関係を理解する。	1より小さい数をかけると積は被乗数よりも小さくなることを理解している。	
⑧ 辺の長さが小数でも、面積や体積の公式が適用できることを理解する。	辺の長さが小数で表されている場合でも、面積や体積の公式を用いることができることを理解している。	
⑨ 小数の場合でも、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解する。	交換法則、結合法則、分配法則が小数でも成り立つことを理解している。	
まとめ	⑩ 学習内容を理解し、確認し、確実に身につける。	「小数のかけ算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通して評価する。
・小数の乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

(例)5年 算数「小数のかけ算」 価規準

4 小数のかけ算

単元の目標と評価規準

小数が小数である理由の乗法の意味について理解し、計算することができることと、図や式などを用いて計算のしかたを考えたり表現したりする。また、その過程において、計算のしかたを多面的に振り返り検討してよりよい方法を振り返り考えたり表現したりする。

① 整数×小数の意味と計算のしかたを理解する。

② 整数×純小数の計算のしかたを理解する。

③ 整数×純小数の計算のしかたを理解する。

④ 小数×小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。

⑤ ⑥ 被乗数や乗数が1の位までの小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。

⑦ ⑧ 被乗数や乗数が1の位までの小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。

⑨ ⑩ 学習内容の理解を確認し、確実に身につける。

知識・技能	思考・判断・表現
① ② 整数×小数の意味と計算のしかたを理解する。	・乗数が小数である場合の乗法の意味や計算のしかたを、乗数が整数である場合の計算の考え方をもとにして、理解している。
③ 整数×純小数の計算のしかたを理解する。 [算数のミカタ]	・乗数が1より小さい数の場合の乗法の意味や計算のしかたを理解している。
④ 小数×小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・小数×小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。
⑤ ⑥ 被乗数や乗数が1の位までの小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・被乗数が1の位までの小数の乗法や、乗数が1の位までの小数の乗法の筆算ができる。 ・乗数が小数である場合の乗法の筆算形式を統合的に理解している。
⑦ 乗数と積の大きさの関係を理解する。	・1より小さい小数をかけると積は被乗数よりも小さくなることを理解している。
(面積や体積の公式)	・辺の長さが小数で表されている場合でも、面積や体積の公式を用いることができることを理解している。
(計算のきまり)	・交換法則、結合法則、分配法則が小数でも成り立つことを理解している。
まとめ	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
 ・小数の乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

主体的に学習に取り組む態度 (単元全体を通じて評価する)
 ・小数の乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

第1・2時 ▶ 研究編 p.88 参照

目標 1・2/10
 ・整数×小数の意味と計算のしかたを理解する。

- 本時の問いの深まり?**
- リボンの代金はいくらぐらいかな。
 - 長さが整数でなくても、かけ算で考えられるのかな。
 - 2.3 をかけるとはどういうことかな。
 - 答えはどのように求めればいいのか。
 - どんな整数の計算をもとにして、答えを求めているのかな。
 - だったら、数が変わっても、同じように考えて計算できるのかな。(次時)

思考・判断・表現 第1～6時 (原 p.44～51)
 ・小数をかけることの意味や、乗数が小数である場合の乗法の計算のしかたを、小数の意味や既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えている。

4 どんな学習がはじまるかな?

リボンを買いに来ました。

代金を予想しよう!

カラリボン 1m 80円

リボン 80円 $?\text{m}$

① (例) 予想 **200**円

(例) 2mより長く、3mより短かうだから、160円から240円の間で、200円ぐらい。

②

みなと: 長さが2mだったら、1mのあなたの2倍だから… $80 \times 2 = 160$ と考えられる。

かえり: 2mよりも少し長そうだよ。 80×2 よりは高く、 80×3 より安いことにかえて気づかせる。

1 「整数×小数の計算」のたしかめ

知技 乗数が小数である場合の乗法の意味や計算のしかたを、乗数が整数である場合の計算の考え方をもとにして、理解している。

第3時

目標 3/10

- 整数×純小数の意味と計算のしかたを理解する。

[算数のミカタ]

? 本時の問いの深まり?

- かける数が1より小さい場合も、同じように考えて計算できるのかな

ねらいに基づいた評価規準

☆ 本時のねらいに正対した学習活動を位置づける

☆ 評価規準との関連

(例) 振り返り

<p>がくしゅうないよう 学習内容</p>	<p>じゅぎょう がくしゅう ○授業で学習したこと</p> <p>じぶん ○自分なりにわかったこと</p>
<p>まなかた 学び方</p>	<p>がくしゅう なか ○学習の中で気づいたこと</p> <p>ともだち まな ○友達から学んだこと</p>
<p>これからの まな 学び</p>	<p>○もっと知りたいこと</p> <p>○これから生かしたいこと</p>

「ねらい」から「まとめ」「振り返り」まで、
①～⑤の順で学習活動を構想

本時のねらいの明確化
 ①

本時のねらいに基づいた評価規準の設定
 ②

本時のねらいに基づいた学習活動の位置付け
 ⑤

学習課題

③

見通し

④

課題解決

⑤

まとめ

③

振り返り

④

教科書

3 教科書の構成を理解し、教材研究をする。

◆ ねらいを達成するための主体たる教材「教科書」

教科の主たる教材として活用する教科書は、教育課程の構成に応じた組織排列（配列）について研究され、編修されています。

教材研究では、評価規準を達成するための具体的な学習活動を想定して、教科書の構成や内容を理解することが重要です。

【POINT】

- 教科書には、児童向けに、学習の進め方や教科の見方・考え方が掲載されています。児童に確認させることにより、課題解決の見通しをもたせます。
- デジタル教材やQRコードが掲載されています。音声教材や映像資料を活用することにより、学習内容の理解を促進します。

国語 学習計画

三年 モチモチの木

(例)



- ① 学習計画
かだい計画
- 登場人物の気持ちをそうぞうしながら読もう。
- ② 全体をとらえる
・登場人物と中心人物
・「おくびよう」と言っているのは？
- ③ くわしく読み取る
・じさまは、豆木をどのような子だと思っているのか
・豆木の気持ちは、どのようにかわっていったのか
 ←
 ・自分の考え
- ④ 深めよう
・豆木は、はじめと終わりでかわったのか
- ⑤ 広げよう
・おもしろいところをしようかいしよう

四年 説明文

第一教材 第二教材

学習計画

課題計画

① けっかどけつろんのつながりをとらえよう。

② ③ だいたいの内ようをつかむ
くわしく読み取り、
考えのすじ道をつかむ

④ ⑤ ⑥ ⑦ だいたいの内ようをつかむ
実験、けっか、けつろんを
読み取る
実験をくらべ、けっかと
けつろんのつながりについて
考える

⑧ 花を見つける手がかり
そうの重さを量る
筆者の説明文の書き方について考える

五年 言葉と事実

言葉と事実 学習計画

言葉と事実との関係を考えよう

- 筆者の「ことば」は？
(一) 「事実」とは、どうしてはなっている？
(二) 「ことば」とは、どうしてはなっている？
- 「ことば」の役割は？
「ことば」が通じて、どのようなことを伝える必要がある？
- 事例と解説
「事例と解説」は、事例をもとに解説した文章です。
このように文章では、次の点に注意して読むことが大切です。
● 筆者が説明していることは、事例のどの部分からとらえているのか
● 事例が何を説明しているのか、事例のどの部分からとらえているのか
● 事例が何を説明しているのか、事例のどの部分からとらえているのか
- 事例と解説
「事例と解説」は、事例をもとに解説した文章です。
このように文章では、次の点に注意して読むことが大切です。
● 筆者が説明していることは、事例のどの部分からとらえているのか
● 事例が何を説明しているのか、事例のどの部分からとらえているのか
● 事例が何を説明しているのか、事例のどの部分からとらえているのか

ここが大事は大事

雪わたり

大造じいさんとがん

いつか大切なところ

ここが大事

「雪わたり」には、歌や会話が、リズムよく、五音・七音などで書かれているところがあります。
また、たとえを効果的に使うことで、情景を美しくあざやかにえています。
リズムのよさを感じたり、何が何にたとえられているか情景を思い浮かべたりしながら読みましょう。

物語のさほん構造

やま場：中心人物が大きく変わる。
展開場面：てきことが起こり、ものが進んでいく。
終わりの場面：てきことの終わりや、人物のその後が示される。

ここが大事

登場人物のしんじようは、ひょうじよう、態度やしぐさ、会話やつぶやき、しんじようけいなどによって、表現されています。
しんじようを読むときには、次のような作者のくふうした表現にも着目して読むことが大切です。
【ここの表現の例】
比喩、はんぶく、擬音語、擬態語、倒置、対句、など

「ここが大事」のまとめ

読む・聞かす

はなしを、かき………(1) 109ページ
みんなのままで、はなし………(1) 109ページ

書く

かくとまだ、おもひなすこと………(1) 111ページ
ほんしよを、かく………(1) 111ページ
おはしを、かかまる………(1) 111ページ
おもひ活して、かく………(1) 111ページ

読む(物語)

したことを、かんがえる………	109	あゆむまじまじとめる………	112
はじめと、おわりを、くらべてよむ………	111	はめに気をつけて読む………	113
よすを、おもいうかべる………	114	登場人物のせいさをえながら読む………	114
とらじよ人物………	114	題名について考える………	115
登場人物のせえをよむ………	114	気持ちにかかわるよけけん………	115
登場人物のせえをよむ………	114	場面をつくりかわりと登場人物の変化………	115
登場人物のせえをよむ………	114	じょうけいを読む………	115
登場人物のせえをよむ………	114	読み方をよくする………	115
登場人物のせえをよむ………	114	印象に残った本すいせんする………	115
登場人物のせえをよむ………	114	題名をよむ………	115
登場人物のせえをよむ………	114	すぐれた表現を読む………	115
登場人物のせえをよむ………	114	ファンシーを読む………	115
登場人物のせえをよむ………	114	伝説を読む………	115

読む(説明文)

たに、ついて、かいて、あるか、かんがえる………	119	けっかかけつらん、事実と意見………	124
ふしうと、まを、あわせてよむ………	120	要約かきかへ………	124
じいんと、まを、あわせてよむ………	120	要約かきかへ………	124
時、場所、大まかさをよむ………	120	要約かきかへ………	124
じいんと、まを、あわせてよむ………	120	要約かきかへ………	124
わたしの「まを」をよむ………	120	要約かきかへ………	124
わたしの「まを」をよむ………	120	要約かきかへ………	124
わたしの「まを」をよむ………	120	要約かきかへ………	124
わたしの「まを」をよむ………	120	要約かきかへ………	124



はたらく じどう車

自動車の「やくわり」と「つくり」のつながりを説明する。

●何について書かれた文章か考える。

伊能忠敬

伊能忠敬の人物像や人生を読み、その生き方について、自分の考えをまとめる。

●今の自分との共通点や相違点を見つけ、比べながら読む。

単元	20年	30年	40年	50年	60年	
20年	<p>はたらく じどう車</p> <p>自動車の「やくわり」と「つくり」のつながりを説明する。</p> <p>●何について書かれた文章か考える。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>
30年	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>
40年	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>
50年	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>
60年	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>	<p>自動車のしくみ</p> <p>自動車のしくみを説明する。</p> <p>●自動車のしくみを説明する。</p>

学びのマップ 算数のミカタ

$80 \times 2.3 = \square$
 $8 \times 23 = \square$

はる $\div 10$ $\times 10$ \rightarrow 等しい
 ゆき $\times 10$ $\div 10$

$0.1m$ の代金 23倍
 $23m$ の代金

学びのマップ
 p.299 ● 計算のきまり

かける数が小数のときも、
 整数の計算をもとにして積が求められるね。

新たなミカタを獲得し、別の場面に活用する

平行四辺形の面積を求めるときは、面積の求め方がわかる前に
 実えるという見方を使いました。

高方形の面積から
 求められるから...

面積を求めると、
 これまでの学習が使えるかを
 考えることが大切だね。

面積が2倍の高方形に
 形を変えて、その面積を
 半分にする。
 式 $4 \times 6 \div 2$

繰り返し使う！

三角形の面積も、面積の求め方が
 わかる形に変えれば求められるね。

2年生までに使ってきた算数のミカタ

新しい計算のしかたを考えたときの足す
 $70+50$ $700+500$
 もっとかんたんな数で
 考えられないかな。
 100 のまとまりで考えて...
 $700+500 \rightarrow 100$ が(7+5)こ

$24+15$
 今までに学習した
 計算が使えないかな。
 数を分けて...
 $24 + 15 \rightarrow 20+10$
 $20 + 4$ $10 + 5$ $4 + 5$

形のどくちようを調べるときの足す
 面積を...
 面積...
 面積...

ものの大きさの表し方を考えるときの足す
 もっとかんたんな数で
 表す方法を...
 長さ1cmを1m...
 のどくちようで...

3年生までに使ってきた算数のミカタ

新しい計算のしかたを考えたときの足す
 $318+225$
 今までに学習した
 計算が使えないかな。
 数を分けて...
 $318 + 225 \rightarrow 300+200$
 $18 + 25$

20×3
 もっとかんたんな数で
 考えられないかな。
 10のまとまりで考えて...
 $20 \times 3 \rightarrow 10$ が(2×3)こ
 $2 \times 3 = 6$ 10 回
 $20 \times 3 = 60$

形のどくちようを調べるときの足す
 面積を...
 面積...
 面積...

ものの大きさの表し方を考えるときの足す
 もっとかんたんな数で
 表す方法を...
 長さ1cmを1m...
 のどくちようで...

自力解決

見通し
イメージ化

掲示物、既習
を生かす

使うアイテムの
提示、限定

- ① ヒントカード
- ② 黒板の近くに集めて小集団
- ③ 全体で途中まで

土台をそろえる

算数 アイテム(思考の道具)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
具体物 ブロック ドット図 ブロック図 まる図	テープ図 アレイ図	線分図 数直線 ます図		面積図	樹形図

<キーワード>

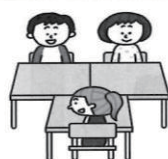

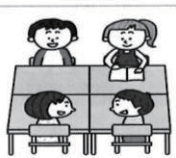

ばら 10のまとまり 100のまとまり

さくらんぼ 分けて 位ごとに ぴったりの数(きりのいい数)

1つつ いくつつ 全部の数 かけられる数とかける数など

○倍 10分の1 1とみたとき 1あたり 1単位量 もとにする量→基準量

交流

人数		人数を使い分けよう	
 <p>三人(トリオ)</p>	 <p>二人(ペア)</p>	<p>○隣どうして話すことができ、席の移動がほほえない。</p> <p>○そんなに声を出さずすみ、近くで他ペアが話していても、相手の声がしつかり聞こえる。</p> <p>○短時間で、互いがしつかり自分の意見を主張できる。</p> <p>○集中力が持続しやすく、低学年向き。</p>	<p>○教師の見取りが大変。</p> <p>●誰と関わるかによって、自分にとってプラスかマイナスか、はっきりと分かれる。</p> <p>●意見の広がり、深まりはあまり期待できない。</p> <p>●「話し合う」というより「意見交換」の意味合いが強い。</p>
 <p>四人(カルテット)</p>	 <p>五人以上</p>	<p>○一人一人がしつかり意見を準備しておくこと、話し合いが盛り上がる。</p> <p>○司会者や記録者などの役割を設けず、ざっくばらんに話し合うことができる。</p> <p>○机、椅子の配置の仕方によって、進行がスムーズに保ちやすい。</p>	<p>●二人で盛り上がり、あとの一人が取り残されてしまうことがある。</p> <p>●児童一人一人の性格や個性に配慮した三人の組み合わせを慎重に吟味する必要がある。</p>
<p>○生活班と兼ねてグループ編成ができる。</p> <p>○司会者、記録者を設け、組織的な話し合いが展開できる。</p> <p>○賛成側、反対側に分かれ、ディベート的な話し合いが展開できる。</p> <p>○四人の意見をたかかわせることで、意見の深まりが期待できる。</p>	<p>○たくさんのお互いとの関わりが期待できる。意見の広がりや深まりが期待できる。</p> <p>○役割分担をすることによって組織的な話し合いもでき、リーダー育成に向いている。</p> <p>○提案性の高い議案での話し合いに効果が高い。</p>	<p>○生活班と兼ねてグループ編成ができる。</p> <p>○司会者、記録者を設け、組織的な話し合いが展開できる。</p> <p>○賛成側、反対側に分かれ、ディベート的な話し合いが展開できる。</p> <p>○四人の意見をたかかわせることで、意見の深まりが期待できる。</p>	<p>●役割に集中してしまい、自分の意見を言えずに終わってしまうことがある。</p> <p>●話し合いに時間を要する。五分では厳しい。最低十分は欲しい。</p> <p>●タイムキーパーや司会者、記録者の力量によって、自分の意見の報告会が終わってしまう。広がりはない。深まりにいたらないケースがよくある。</p>

交流(ペア、少人数)

- ① 短時間に話す機会の確保
- ② 安心、自信
- ③ 練習
- ④ 教師側の支援、見取り
- ⑤ アドバイス、ヒント、知る
- ⑥ 思考の広がり

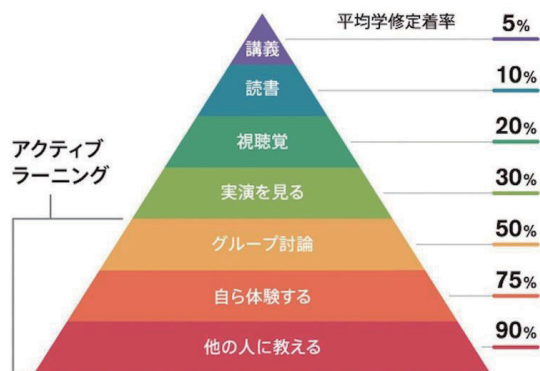
話したくなる授業作り
話せる環境作り
意図をもって

何のためにペア交流しているのか
どんなよさがあるのか
子どもにも意識させること

話す、聞く時間
反応の仕方

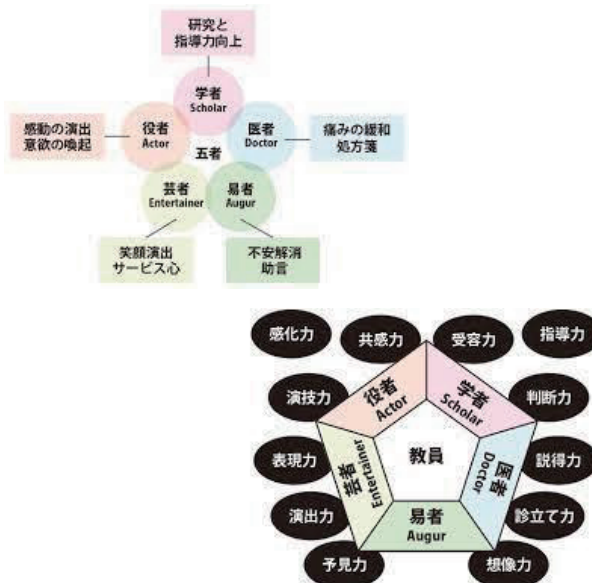
- ☆低学年→自分なりに表現…たくさんの児童が話せる、聞ける経験
- ☆中学年→分かりやすく説明できる…高め合える練習、価値づける、伸ばしていく
- ☆高学年→的確に説明できる…自分達で作り上げる授業

ラーニング・ピラミッド



出典: The Learning Pyramid. アメリカ National Training Laboratories

5者



作成してみよう！

～板書型指導案～

授業略案（年 月 日 時間目）（教科・領域

）（単元・主題名）（
（授業者）（学級 年 組 名）

板書計画

--	--	--

○本時の目標（ねらい）

○指導の留意点や準備物・掲示物等

☆令和4年度の重点！ 努力を要する児童への手立て

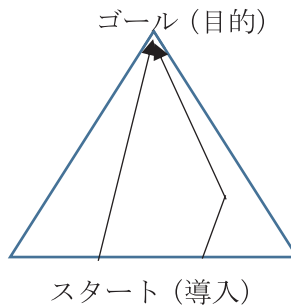
1 単位時間の授業づくり（中学校）

1. 1時間で「何を学ばせたいのか」の確認。

(1) 学習指導要領⇒自校の年間指導計画⇒単元・題材の指導計画⇒授業の流れ

2. 「〇〇を学ばせたい」から…

- (1) 何を考えさせるのか
 - (2) どこを教えるのか
 - (3) どのように発展させていくのか
- という流れで授業を組み立てていく。



(4) 山登りに例えると山頂（ゴール）は同じであるが、そこに向かうためのルートは何通りも存在する。

生徒等の実態に応じて、改良を重ねていく必要がある。

3. 目的、目標、問題、課題について

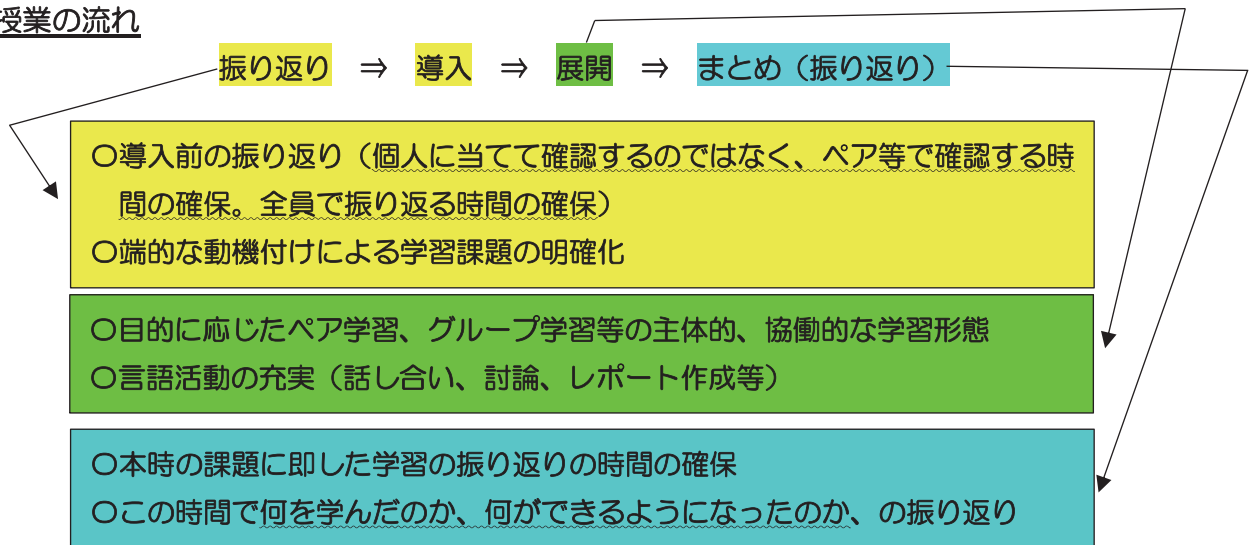
目的：目的とは、何のためにそれに取り組むのかということ

目標：目的を達成するために目指すべきところ、あるべき姿のこと

問題：目標（あるべき姿）と現状の乖離のこと

課題：あるべき姿と現状のギャップを埋めるためにやらなければならないこと

4. 授業の流れ



この吹き出しには授業づくりのポイントを載せています！

6学年2組 国語科学習指導案

日時 令和4年6月14日(火) 第5校時
児童 6年2組 33名
指導者 武田 麻衣子

1 単元名 立場を決めて、主張を明確にしよう

教材名 地域の防災について話し合おう パンフレットで知らせよう

前の学年・次の学年とのつながりを考え、指導要領に即してどんな力をつけていくか考えます。

2 単元設定の理由

(1) 児童について

同内容の前学年の単元である5年時の「AI との暮らし」の学習では、AI の利用について「賛成」と「反対」のどちらかの立場を決めてミニディベートを行った。

話すときは相手が聞きやすい構成で、意見の根拠となるデータや具体例を資料として示すことで説得力のある意見を述べるができることと学んだ。また、あらかじめ反論を予想して答えを示すことで、自分と異なる考えを持つ人を納得させやすいということも知り、自分の立場を定めて意見を述べることができた。

また、聞くときは具体例として示された資料や根拠となるデータが主張と結びついているかどうかを考えたり、自分との違いを比べたりしながら聞くことで、よりよい判断ができることを学んだ。

一方で自分の意見を裏付けるデータやAI 使用の具体例について、どういったものなのかをしっかりと把握せずに、意見に組み込んだことで自分の主張と結びつかなくなってしまう児童が少なくなかった。調べたことを理解し、自分の言葉で説明しなおす力が不足している。また、聞く際に話し手が言おうとしていることは概ね理解できたが、自分の意見を伝えるばかりで、相手のよさを見つけたり折衷案を見つけようとしたりするなど、意見を広げていくことができない児童が少なくなかった。

パンフレット作りについての前学年の単元「ポスターを作ろう」では、宿泊学習で体験したことを保護者に伝えるためのポスターを作った。相手に興味をもって見てもらうためには、ニュース風、新聞風など興味を持ってもらえるように工夫した構成を考えたり、文章と写真のバランスを考えてレイアウトをしたりすることの大切さを学んだ。しかし、一番伝えたいことがだんだんとぶれてしまい、冗長な文章を書いたり、伝えたいことと関係のない写真を用いたりする児童が少なくなかった。また、グループ全体のレイアウトに一貫性がもてず、魅力的なものとならなかった。

(2) 単元構成について

本単元は、賛成・反対だけでなく、様々な立場から意見を出し合うパネルディスカッション形式の討論を行う。今までの学習した具体例の用い方やその効果を確認し、効果的な資料の示し方や提案のポイントをおさえることで、筋道立てて自分の考えを伝える力を育てていきたい。具体例を調べ、自分の主張に組み込み際に、同じ立場の人に対して自分の言葉で言い換える時間を設けることで、語彙力や説明する力を伸ばしたい。また、毎時間自分が支持する立場を確認させ、それについて調べていくことで、一貫した立場で防災についての自分の主張ができるようにしていく。今回は相手の立場を変えることが目的ではなく、様々な立場の意見に触れ、自分や相手の意見を更に深めたり広げたりすることが目的であることを伝え、自分の意見と比べたり、相手の意見を更によくしたりするための質問や意見を言うことを意識させ、考えを広げたりまとめたりする力を育てていく。

さらに今回はパネルディスカッションで様々な立場からの意見を聞き、深まった考えをもとに、防災について備えておくべきことを伝えるためのパンフレット作りにつなげていきたい。誰に、何を、なんのために伝えたいのかを話し合っ考える活動を位置づける。さらに、グループ全体としての何を伝えるのかの主張を明確にし、それを伝えるためにどのようなものが必要で、どういった構成にするとより伝わるのかを話し合う時間を設ける。そして、できあがったものをより多くの人に読んでもらい感想をもらえるようにすることでパンフレットを書きたいという意欲につなげ、自分の考えが伝わるように相手に合わせて書き表し方を工夫する力をつけていきたい。

(3) 指導について

パネリストとして参加する際に意識すること、フロアとして参加するときどのようなことに注目して聞けばよいか分かるように最初の段階で進め方の確認や意見提示の方法を丁寧に指導していく。フロアとして聞く際には、相手の主張やそれに伴った具体例、それに対しての自分の考えを書き込めるワーク

シートをもちいて話し合いに参加できるようにする。

パンフレットの作成においては、伝えたいことをより効果的に伝えるためには、どのような文章表現をするとよいのか、どの程度具体的な数値を使ったり、引用や図表を使ったりするとよいのかなどを今までの説明文の学習と結び付けて考えさせたい。

また、単元のはじめに児童と学習計画・ルーブリック評価を共有することで、どのようなことを意識してディスカッションに参加し、自分の考えを伝え、相手の考えを聞くとよいのかということや、どのように自分の考えを広げるとよいのかを意識させ、興味をもって主体的に学ぶことができるようにした。具体的な自己評価・他者評価も可能となり、他者の文章から新たな気づきを得る指標ともなるようにした。

3 単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使うことができるようにする。 (知識及び技能(1)オ)	① 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等C(1)ア) ② 引用したり、図表やグラフを用いたりして自分の考えが伝わるように工夫することができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等B(1)エ)	① 友達の意見を聞いて質問をしたり自分の考えをとの違いを述べたりして考えを修正したり広げようとする。 ② 粘り強く意見の違いを大事にしながらか話し合い、学習の見通しを持って考えを深めようとする。 (思考力、判断力、表現力等C(1)アより作成) ③ 積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとする。 (思考力、判断力、表現力等B(1)エより作成)
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> こちらを子ども向けの言葉にして、子どもと一緒に評価や目標を共有することができます。「ルーブリック評価」の一つですね。 </div>		

4 本単元における言語活動

- それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動
 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)ウ)
- 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動
 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	① 思考したことを豊かな語彙で表し、調べた内容と自分の主張の関係性を理解し、正しく具体例や資料を用いている。	① 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、質問をしたり答えたりすることによって考えを深めている。 ② 「書くこと」において、筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考え、自分の主張を明確に伝えている。 ③ 「書くこと」において、自分の言いたいことを伝えるための資料を引用したり具体的な例を用いたりして表し方を工夫している。	① 意見の違いを大事にしながらか粘り強く話し合い、相手と自分の意見を比べ、よりよい結論を出そうとし、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。 ② 相手や目的に応じて内容や構成を考え、表現を工夫しながら学習課題に沿って積極的にパンフレットを作ろうとしている。

B	①思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。	①「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが ら計画的に話し合い、考えたり広 げたりまとめたりしている。 ②「書くこと」において、筋道の通 った文章になるように、文章全体 の構成や展開を考えている。 ③「書くこと」において、引用したり、 図表やグラフなどを用いたりして、 自分の考えが伝わるように 書き表し方を工夫している。	①意見の違いを大事にしなが ら粘り強く話し合い、学習の見通 しをもって考えを深めようとして いる。 ②積極的に相手や目的に応じて 内容や構成を考え、学習課題に 沿ってパンフレットを作ろうと している。
---	--	---	---

6 指導と評価の計画（全10時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	○評価規準 ☆評価方法
1	○学習の見通しをもつ。 ・パネルディスカッションの 進め方を確認する。 ・ディスカッション後にパン フレットを書く相手を決め る。	・相手に合わせた防災の取り組みをデ ィスカッションで探していくことを意 識させる。	
2	○自分たちで話し合うテー マについて考える。 ・話し合うテーマを決定す る。 ・テーマに関する観点とグル ープを決める。	・教科書も参考にし、様々な立場から 「防災」について考えさせる。 ・岩内地域で起こりそうな災害につい て想起させる。	①思考に関わる語句の量を増 し、語句と語句との関係、語句 の構成や変化について理解し、 語彙を豊かにしている。 (知技(1)オ) ☆ワークシート ☆グループ交流
3	○自分たちの主張を組み立 てる。 ・自分たちのグループの観点 について情報を集め、主張を まとめる。	・主張を裏付ける具体例や資料を探す ように指導する。常に主張を意識で けるように構造化したワークシートを用 いる。	①「話すこと・聞くこと」にお いて、互いの立場や意図を明確 にしなが ら計画的に話し合い、 考えたり広げたりまとめたり している。(思判表Aオ)
4 5	○パネルディスカッション を行う。 ・役割を確かめ、順序に沿 って話し合いを進める。	・パネリストには、ディスカッション 後に自分の意見がどのように変わ ったり深まったりしたかを考えさせる。 ・フロア参加者はパネリストの主張、 主張を強固なものにするためにどのよ うな構成で話していたかを意識しなが ら参加できるようにワークシートに書 き込みながら参加するよう指導する。	☆ワークシート ☆グループ交流 ①友達の意見を聞いて質問を したり自分の考えをとの違い を述べたりして考えを修正し たり広げようとしている。 ②粘り強く意見の違いを大事 にしなが ら話し合い、学習の見 通しを持って考えを深めよう とする。(態度)
6	○学習の振り返りをする。	・自分と相手の立場を明確にできたか を振り返らせる。 ・次のパンフレット作りにどのよう にディスカッションしたことを生かせる かを振り返りにいれる。	☆ワークシート ☆グループ交流
7	○教科書を読み、どのように パンフレットを作るのかを イメージし、学習の見通しを もつ。	・違う立場の人同士でグループにな り、知らせたい内容を話し合わせる。 ・ディスカッションで得た情報を振り 返らせなが ら話し合いをすすめさせ る。	②「書くこと」において、筋道 の通った文章になるように、文 章全体の構成や展開を考えて いる。(思判表Bオ)

8 本 時	○どのような構成にすると自分たちの主張が伝わるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 相手に合わせて表現や文章量を調整するように適宜見直しをさせながら作成させる。 自分たちの主張が伝わる構成を考えさせる。 	③「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(思判表B工) ☆ワークシート ☆グループ交流 ☆パンフレット
9	○パンフレットを作り、読み返す。	<ul style="list-style-type: none"> 読む相手を意識して読み返させ、修正を促す。 	③積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。(態度) ☆ワークシート ☆グループ交流 ☆パンフレット
1 0	○パンフレットを読みあう。	<ul style="list-style-type: none"> 読んだ後、相手に読んでもらうことを伝える。 	☆ワークシート ☆グループ交流 ☆パンフレット

7 本時の指導 (8/10)

(1) 本時のねらい

○目的や意図、伝える相手に応じて、自分の考えが伝わるように表し方を工夫しながらパンフレットの構成を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

①「書くこと」において、筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えている。

(思判表Bオ)

②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(思判表B工)

③積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。(態度)

(3) 展開

展開時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 8分	1 前時までの復習と本時の課題の確認をする。	○前回までのワークシートを見ながら、パンフレット作りに大切なことを振り返らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">How型の課題にすると、考える視点が明確になります。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">課 役場の人を読みたい・やってみようという気持ちにさせるにはどのような内容構成にするとよいのだろう。</div> ○「内容」と「構成」という言葉について確認する。	
展開 ① 12分	2 伝えたいことを出し合う。 3 相手に自分たちが提案する防災対策に興味を持ってもらい、やってみ	○各自が何を伝えたいのか、そのためにどのような書く材料を用意するのか話し合い、パンフレットの内容を簡単に考えさせる。 ○どのような話題があれば、自分たちの進める防災の取り組みに興味をもってもらえるのかを、ディスカッションで自分が興味をもったことや具体	①「書くこと」において、筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えている。(思判表Bオ) ②「書くこと」に

展開② 18分	4 グループで交流する。	<p>例の提示の仕方などの観点から話させる。</p> <p>○身近なパンフレットや広報誌を参考に、どのような構成ならば読んでもらえるかの観点で意見を出させる。話の順序やまとまりに注目させる。</p>	<p>おいて、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(思判表B工)</p> <p>③積極的に相手や目的に応じ内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。(態度)</p> <p>☆ワークシート ☆グループ交流の参加の状況</p>
	5 出た意見を全体で交流する。	<p>○よい気付きは全体で共有する。</p> <p>個人→小集団→全体の順序で考えを深めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力で考える力を付ける ・友達の考えを聞いて考えを深める・広げる <p>二点をねらいとしているので、このような順序で交流をしていきます。</p> <p>自分の考えが持てない子には「聞いてみて、相手の意見の中でわかった部分を繰り返すこと」更に進める子は「質問をしたり、つけたしをしたりして考えを広げ・深める」ことを伝えています。</p> <p>自分にあった目標で交流をしています。</p>	
終末 5分	6 本時の学習をワークシートにまとめる。	<p>まとめの例) 読みたい気持ちにさせるには、目を引くイラスト使ったり、見出しを工夫したりするとい。</p> <p>実行しようと思ってもらうには、危険性を伝えたり、実際に行っている具体例を書いたりするとい</p>	
	7 学習を振り返る。	<p>どのように～すればいいのだろうかのときは正対する答えを書きます。はっきり答えを書けないときは、子どもができたこと、わかったこと、次に生かしたいことなどを書きます。</p>	

8 板書計画

進行内容
① 導入
② 本時の学習
③ 振り返り

<p>① 具体的な数値がある図表が増える。</p> <p>② 実現可能な内容でない実行してほしくない。</p> <p>③ 一冊や二冊の冊子で説明する。</p> <p>④ 他市の事例の具体的な例を示す。</p> <p>⑤ 振り返りのポイントとなる内容を挙げる。</p> <p>⑥ その対照表を作成して見せたり。</p> <p>⑦ 危険性を伝える。</p> <p>⑧ 具体的な事例を挙げてみる。</p> <p>⑨ 文書はわかりやすい。</p> <p>⑩ 具体例のイラストや図表は必ず入れる。</p> <p>⑪ 危険なことを伝える。</p> <p>⑫ 自分たちが推定する内容を挙げてみる。</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿</p>	<p>構成について</p> <p>① 主張がしかり伝わるようにしたい。</p> <p>② 一冊の内容を絞りたい。</p> <p>③ 大事なことを絞りたい。</p> <p>④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿</p>
--	--

① 主張を譲り、主張を取り入れてもらった方がいいことを伝えていくのを心がけよう。

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

課	役	場	の	人	を	読	み	た	い	・	や	っ	て	み	よ	っ	と	い
う	気	持	ち	に	さ	せ	る	に	は	ど	の	も	っ	な	内	容	構	成
に	す	る	と	よ	い	の	だ	ろ	う。									

①主張を確認し、主張を受け入れてもらうためにみんなじつを伝えるしくのかを考えよう。

記述例

- ・障壁のある人や子ども・お年寄りにも理解しやすいガイドブックを作してほしい。
- ・何か一つでも津波対策をしてほしい。→他の市町村のじつ
- ・避難標識を壁に取り付けてほしい→つかるものを伝える。
- ・避難訓練を増やしてほしい。→避難訓練の必要性を伝える。

内容・・・文章や図の中身のこと。

構成・・・一つ一つの内容をどう順番で組み立てるかということ。

②どういった構成や内容にするか読みだして読んでもらえぬ。この意見をやりとりしながら読んでもらえたらいい。考えてみよう。(個人→グループ→全体)

内容について	構成について
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数値があると説得力が増す。 ・実現可能な内容でないと実行してもらえない。 →予算や土地についても明記する。 ・他の市町村の具体例もあるといい。 ・振り返りのイラストなどもあるとよく覚えてもらえそう。 ・その対策をする意味をしっかりと伝えたい。 ・危機感をもってもらえると実行してもらえそう。 ・丁寧な言葉で書く。 ・文章ははじめ→中→終わりを意識して書く。 ・主張をわかってもらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主張がしっかりと伝わるようにしたい。 →書く内容を絞り込む。 →大事なことを分かりやすく。 ・はじめ・中・終わりが意識してもらいたい。 →危険を知らせて、対策しようという気持ちにさせるといい。 ・自分たちが推す災害対策を分かりやすく載せたい。 ・文字ばかりでない方がいい。 ・具体例のイラストも載せるといい。 ・載せる順番をよく考えた方がいい。 危険だよ→だからこういう対策をしよう→などという流れ。 ・色使いも大切。

はじめ・振り返り

読みだす気持ちに合わせるには、目を引くイラストを使う、見出しを工夫したりもあるといい。実行しようと思ってもらえるには、危険性を伝えたり、実際にやっている具体例を書いたりもあるといい。実行可能な事例を示すのも大切。

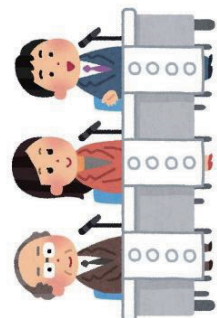
地域の防災について話し合おう・パンフレットを知らせよう(十時間)

学習のめあて

- ①立場を決めて、主張を明確にして話し合おう。
- ②若内町役場の人に「地域の防災について」伝えるために、内容や構成を考え、パンフレットを作ろう。

学習計画(十時間 + トスト)

- 一 パネルディスカッションの目的や大事なことを知り、学習計画をたてる。
- 二 パネルディスカッションのために、立場別にグループを組み、意見を話し合う。
- 三 自分たちの立場の主張を明確にし、必要な資料を準備する。
- 四 パネルディスカッションをする①
- 五 パネルディスカッションをする②
- 六 パネルディスカッションを振り返り、自分の考えの深まりや変化をまとめる。
- 七 パンフレットについて知り、どのように作るのかをイメージする。
(111が大事を確認)
- 八 書く内容を決め、構成を考える。
- 九 読み手に分かりやすくするための工夫を考え、パンフレットを作る。
- 十 作ったパンフレットを調べ返してもしらめらるにる。



評価	知識・技能	思考・判断・表現	態度
A	<p>①考えたり思ったりしたことをいろいろな言葉や表現で表し、自分の主張調べたことで強められるように、正しく具体例や資料を用いている。</p>	<p>①「パネルディスカッション」で互いの立場や意図をはっきり理解しながら計画的に話し合い、質問をしたり答えたりすることによって考えを深めている。</p> <p>②「パンフレット作り」において、文章全体の構成（はじめ・中・終わりの効果）や展開（具体例の使い方や話し方）を考え、自分の主張を明確に伝えている。</p> <p>③「パンフレット作り」において、自分の言いたいことを伝えるための資料を引用したり具体的な例を用いたりして表し方を工夫している。</p>	<p>①意見の違いを大事にしながら粘り強く話し合い、相手と自分の意見を比べ、よりよい結論を出そうとし、学習の見直しをもって考えを深めようとしている。</p> <p>②積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、表現を工夫しながら学習課題に沿って積極的にパンフレットを作ろうとしている。</p>
B	<p>①考えたり思ったりしたことを、新しく覚えた言葉で表し、言葉同士の関係、覚えている言葉を増やしている。</p>	<p>①「パネルディスカッション」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えたり広げたりおさめたりしている。</p> <p>②「パンフレット作り」において、筋道の通った文書になるように、文章全体の構成や展開を考えている。</p> <p>③「パンフレット作り」において、引用したり、自分の主張に合った図表やグラフなどを用いたりしている。</p>	<p>①意見の違いを大事にしながら粘り強く話し合い、学習の見直しをもって考えを深めようとしている。</p> <p>②積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。</p>
C	<p>①考えたり思ったりしたことを、おもに覚えた言葉で表している。</p>	<p>①パネルディスカッションにおいて、自分の立場を明確にして話し合いに参加している。</p> <p>②パンフレット作りにおいて、文章の構成を考えている。</p> <p>③パンフレット作りにおいて、図表やグラフを用いたりして工夫して書いている。</p>	<p>①意見の違いを大事にしながら話し合いに参加している。</p> <p>②相手のことを考えながらパンフレット作りをしている。</p>

研修講座 学習指導（授業改善）

主体的・対話的で深い学びにむけた

授業改善の視点

本講座では、授業改善のための指針の一つとして、東北大学大学院情報学研究科と内田洋行教育総合研究所の共同研究『新学習指導要領で育成を目指す資質・能力の具現化と指導方法等に関する研究』（以下「本研究」）を取り上げます。教育の情報化を専門とする東北大学の堀田龍也教授によるもので、新学習指導要領で想定される学習過程を概観した上で、授業改善の視点を抽出しています。この視点が、日々の授業を考えるためのヒントになると考えました。

この講義で、まず、「主体的・対話的で深い学び」について再確認するとともに、本研究で示された新学習指導要領における学習過程を紹介します。次に、児童生徒の学びの姿から抽出した授業改善の視点を紹介します。最後に、この授業改善の視点を学習過程へ配置したものを紹介し、かねてより後志教育研修センターでの研究と実践を積み重ねてきた板書型指導案へ反映したものを紹介します。

1 新学習指導要領で想定される学習過程

平成28年の中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、「新しい社会の在り方を自ら創造することができる資質・能力を子供たちに育むためには、教員自身が習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡し、個々の内容事項を指導することによって育まれる資質・能力を自覚的に認識しながら、子供たちの変化等を踏まえつつ自ら指導方法を不断に見直し、改善していくことが求められる。」として、各教科における学習過程を意識した指導方法の工夫改善の重要性が示されています。そこで、本研究では、新学習指導要領における国語・社会・算数・理科の4教科の学習過程を比較し、以下のように「問題解決的な学習過程」として整理しています。

新学習指導要領における問題解決的な学習過程

課題把握	「課題把握」の過程では、学習課題を提示して、学習のねらいを明確にします。学習に取り組む前に、子供自身が「何を」「どのように」学ぶかという見通しを持つことで、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めます。
課題追究	「課題追究」の過程では、仮説を立て、それに基づいて各種の資料から必要な情報を集め、比較や分類、関連付けたり、試行錯誤したりしながら、考えを深めていきます。これらの活動は子供たち同士で取り組むことも重要です。
課題解決	「課題解決」の過程では、筋道を立てて考えたことをまとめ、導き出した結論を発表したりレポートにまとめたりして表現します。また、互いの結果を基に話し合ったり、相互に評価しあったりする活動を行いながら、より深い学びを実現していきます。
振り返り	「振り返り」の過程では、これまでに学習したことを振り返り、学習したことの意義や価値を実感し、学習内容を確実に定着させます。また、取り組んだ内容を基に新たな課題を見つける等、次の学習活動への活用につなげます。

これを見ると、新学習指導要領における学習過程も、これまでの単元計画や授業展開と大きく変わるものでないことがわかります。「課題把握」はいわゆる導入の部分であり、展開にあたる部分として、「課題追究」が自力解決や自力思考に当たり、「課題解決」が全体交流などに該当するものです。終末あるいはまとめの部分として「振り返り」が位置付けられています。ここからも、新学習指導要領の求める「主体的・対話的で深い学び」が、これまでの授業研究を否定するものでないことがわかります。

2 「主体的・対話的で深い学び」からみる授業改善の視点

この中教審答申では、「主体的・対話的で深い学び」について、以下のように示されています。

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことで、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。

すると、これまでの授業が否定されるものではなく、これまでも連綿と紡がれてきた授業改善の歩みを続ければよいと考えられます。では、学校教育における質の高い学びを実現するためにはどのような方向性を目指せばよいのか。授業改善の視点として、以下のものが示されています。

① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだし解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

上記に示された記述は、目指す児童生徒の学びの姿とも言えるものです。本研究では、この児童生徒の学びの姿を授業改善の視点として抽出しています。

まず、主体的な学びに関する授業改善の視点として、以下の5つの視点を抽出しています。

- 「1 学ぶことに興味関心を持つ」
- 「2 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける」
- 「3 見通しを持つ」
- 「4 粘り強く取り組む」
- 「5 自己の学習活動を振り返り次につなげる」

次に、対話的な学びに関する授業改善の視点として、以下の4つの視点を抽出し、さらに、「6 子供同士の協働を手掛りに考える」については、2つの下位項目が設定されています。

- 「6 子供同士の協働を手掛りに考える」
 - 「6A ペアや班で考える」
 - 「6B 学級全体で考える」
- 「7 教職員や地域の人との対話を手掛りに考える」
- 「8 先哲の考え方を手掛りに考える」
- 「9 多様な表現方法を用いて対話する」

最後に、深い学びに関する授業改善の視点としては、以下の4つの視点を抽出しています。

- 「10 知識を相互に関連付けてより深く理解する」
- 「11 情報を精査して考えを形成する」
- 「12 問題を見いだして解決策を考える」
- 「13 思いや考えを基に創造する」

なお、本研究では、「各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら」という部分については、新学習指導要領における問題解決的な学習過程として整理された「課題把握」「課題追究」「課題解決」「振り返り」のなかで、特定の学習過程に位置付けることは不相当であるとされ、授業改善の視点として抽出することを保留されています。実際の授業改善にあたっては、「見方・考え方」を働かせるという視点をもつことも必要です。

3 学習過程への授業改善の視点の配置

本研究では、望ましい児童生徒の学びの姿から抽出した13の授業改善の視点を、「問題解決的な学習過程」のいずれか1つの段階に位置づくように配置した表を作成しています。本来的には複数の段階にまたがる視点もありますが、可能な限り、1つの授業改善の視点が2つ以上の学習過程をまたぐことのないように設定されています。問題解決的な学習過程の各段階に位置付けることで、このような授業改善の視点を意識して学習活動を設定することが容易になり、授業デザインがしやすくなるのではないかと考えます。

この表を活用して授業計画を行う際には、学習過程の各段階において、どの授業改善の視点を使って授業を行うのかチェックし、それぞれの視点の具体的な手立てを活用することでどのような活動が設定できるかを検討します。例えば、「課題把握」の過程には、主体的な学びに関する授業改善の視点が2つ示されています。1単位時間の授業の導入、あるいは、単元計画の第1次では、これらの視点で教材や学習活動を検討し、授業を設計することが授業改善につながると考えられます。

	課題把握	課題追究	課題解決	振り返り
主体的	1 学ぶことに興味関心をもち 3 見通しを持つ	4 粘り強く取り組む		2 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける 5 自己の学習活動を振り返り次につなげる
対話的		6 子供同士の協働を手掛りに考える 6A ペアや班で考える 7 教職員や地域の人との対話を手掛りに考える 8 先哲の考えを手掛りに考える 9 多様な表現を用いて対話する	6B 学級全体で考える	
深い学び		11 情報を精査して考えを形成する 12 問題を見出して解決策を考える 13 思いや考えを基に、創造する	10 知識を相互に関連付けてより深く理解する	

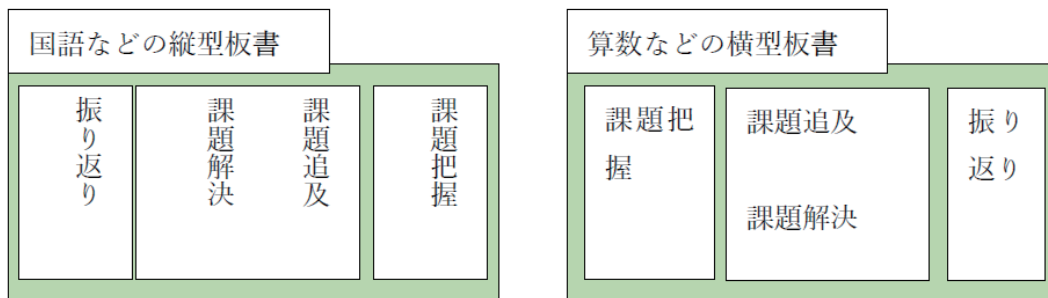
さらに、この表を板書型指導案に合わせたひな型を作成しました。板書の構成と学習過程を合わせながら、授業設計をすることができます。先生方の授業設計、授業改善にお役立てください。

なお、この板書型指導案は、次のような活用の仕方を想定しています。

B評価			
課題把握	課題追及	課題解決	振り返り
1. 教科書に書かれた内容を、自分の言葉で説明できる。	4. 振り返りシートで振り返りできる。		2. 提出物やワークシート作成の正確性と課題解決の状況を確認できる。
3. 友達にも教えたい。	5. ワークシートで考えをまとめる。	6. 学習態度で考えをまとめる。	5. 提出物の学習態度を確認し、次に活かすことができる。
	7. 友達との関わり合いを確認できる。		
	8. 課題の考えをまとめられる。		
	9. 課題を最後までやり遂げることができる。		
	11. 問題を発見して考えを整理できる。	10. 問題を発見し課題解決できより深く理解できる。	
	12. 問題を解決して解決策をまとめる。		

配置図を活用した授業計画のポイント

- (1) 本時の目標や評価規準を確認する。
 - (2) 課題把握、課題追及、課題解決、振り返りの各段階において、どの授業改善の視点を使って授業を行うか、チェックする。また、それぞれの視点の具体例チェックリストを活用し、どのような活動を行うか計画を立てる。
 - (3) 板書計画を立てたり、発問を考えたりする。
- ※板書は、3段構成とする。



4 授業改善の視点と教師の手立て

今回の講義では、いわゆる「全体交流」の場面を掘り下げます。先ほどの表では、「課題解決」の過程における「深い学び」の視点、「10知識を相互に関連付けてより深く理解する」にあたります。この視点から学習活動を改善する教師の手立てとしては、次のものが挙げられています。例えば、「根拠を明確にして考えさせる」という学習活動を実現するために、「考えの理由を説明させる」「わざと間違えた回答を提示する」といった教師の手立てが有効であるということが示されています。これらの手立ては、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる授業実践事例から、抽出されたものです。ただ、多岐にわたる手立てが挙げられていますので、このうち、全体交流での学習活動を想定して、さらに10の手立てを選び、整理しました。日常の授業改善として、普段の授業を設計する際に、全体交流の活動の質を高めるために、これらの手立てとして検討することが有効だと考えます。

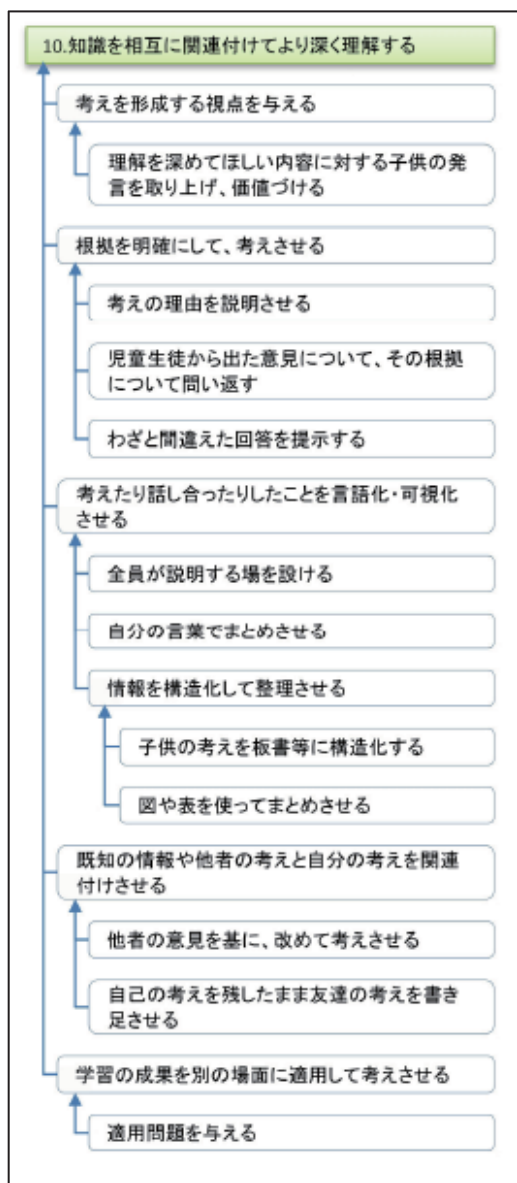
5 その他

今回は取り上げていませんが、主体的・対話的で深い学びの実現には、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が欠かせません。詳しくは、令和4年度「教育課程編成の手引き（北海道教育委員会）」で大きく取り上げていますので、ご参照ください。

令和4年度 教育課程編成の手引 北海道教育委員会
<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/108005.html>



本研究で示された手立て



全体交流での活動を想定して整理した手立て

10 全体交流(深める)

- 子どもの発言を取り上げる
- わざと間違えた回答を出す
- 説明する場を作る
- 自分の言葉でまとめさせる
- 図や表を使わせる
- 黒板に先生が考えを書く
- 子どもに考えを書かせる
- 友だちの考えを見て、改めて考えさせる時間を持つ
- 友だちの考えをノートに書かせる
- ほかの問題を考えさせる

【参考資料】

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」平成28年12月21日、中央教育審議会

『主体的・対話的で深い学び』を実現するための教師の手立てとICT活用(vol.1~3) — 東北大学大学院情報科学研究科×内田洋行教育総合研究所 共同研究— 2018年6月、内田洋行教育研究所

https://www.manabinoba.com/edu_watch/017578.html



本時の目標

Blank area for writing the lesson objectives.

B評価

	課題把握	課題追求	課題解決	振り返り
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 1 学ぶことに興味・関心を 持たせる 3 見通しを持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> 4 粘り強く取り組ませる 		<ul style="list-style-type: none"> 2 自己のキャリア形成の方向性と関連付けさせ 5 自己の学習活動を振り返り、次につなげさせる
対話的な学び		<ul style="list-style-type: none"> 6 ペアや班で考えさせる 7 先生との対話から考えさせる 8 先哲の考えから考えさせる 9 多様な表現方法を用いて話し合わせる 	<ul style="list-style-type: none"> 6 学級全体で考えさせる 	
深い学び		<ul style="list-style-type: none"> 11 情報を精査して考えを形成させる 12 問題を見いだして解決策を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 10 知識を相互に関連付けてより深く理解させる 	

国語用

本時の目標

Blank area for lesson objectives.

B評価

振り返り	課題解決	課題追求	課題把握	
2 自己のキャリア形成の方向性と関連付けさせる 5 自己の学習活動を振り返り、次につなげさせる	6 学級全体で考えさせる 9 多様な表現方法を用いて話し合わせる	4 粘り強く取り組ませる 6 ペアや班で考えさせる 7 先生との対話から考えさせる 8 先哲の考えから考えさせる	1 学ぶことに興味・関心を持たせる 3 見通しを持たせる	主体的な学び 対話的な学び
10 知識を相互に関連付けてより深く理解させる		11 情報を精査して考えを形成させる 12 問題を見いだして解決策を考える		深い学び

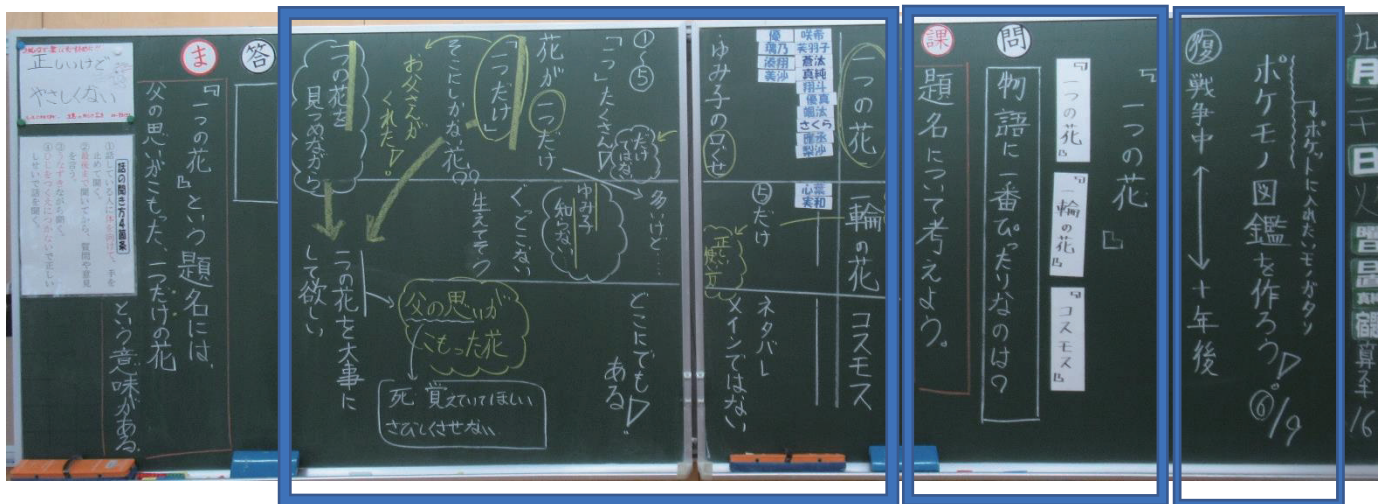
本時の目標

全体交流用

Blank area for lesson objectives and general exchange activities.

B評価

10 全体交流（深める）			
考えを形成する視点を与える	根拠を明確にして、考えさせる	考えたり話し合ったりしたことを言語化・可視化させる	学習の成果を別の場面に適用して考えさせる
□子どもの発言を取り上げる	□わざと間違えた回答を出す	□説明する場を作る □自分の言葉でまとめさせる □図や表を使わせる □黒板に先生が考えを書く □子どもにも考えを書かせる	□ほかの問題を考えさせる
		□友だちの考えを見て、改めて考えさせる時間を持つ □友だちの考えをノートに書かせる	

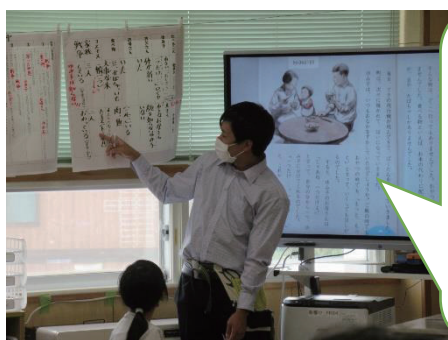


③

②

①

- ① 単元のゴールを確認し、子ども達の意欲を高め、今後の活動の見通しを持つ。
- ① 本時と単元のゴールのつながりを示し、必要感を持たせる。
- ① 掲示物とペア交流を活用し、短時間での復習を行う。



これまでの学習で
まとめてきた掲示
物とICTを活用
して本時のポイント
となる部分を確認
した。



ペア交流を活用
し、短時間で全員
がアウトプットす
る時間を確保し
た。

- ② 題名をわざと担任が間違えて板書することで、子ども達の意識を題名に向けさせる。
- ② 『Which型の課題(桂聖)』を出すことで、思考・交流への子ども達の意欲を高める。
- ② シンプルで短い課題で、子ども達が「今日考えること」を明確にする。

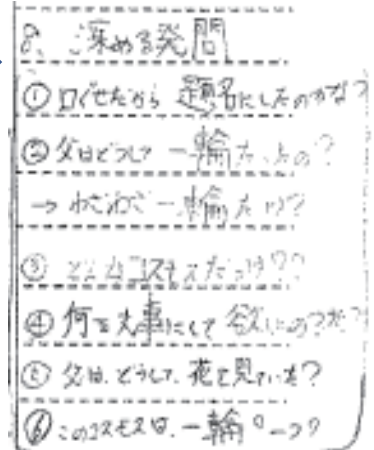
- ③ 寿都小学校独自の「教師の全体交流3か条」をもとに、全体交流を行う。
- ③ 問題の答えを導くことを目的とせず、全員が話し合いに参加しながら、本時のねらいにせまっていくことを目的とする。 ※ どちらが正解かに固執しない。

今日の授業の全体交流は
整理：【深める 応用問題 ゆさぶり 練習問題 探究 その他】 = 6 : ④

具体的には(子どもの姿で)？
④ 「深める発問」について、考えたり、話し合ったりできる。
④ 教師の発問や本時に対し、話したり、答えたりできる。

- 教師の全体交流3か条**
- ① 子ども達に発言を促唱してもらいます。
 - ② 開いた質問を増やします。
 - ③ 全体交流の始めの発問に力を入れます。

子ども達の反応を予想し、「深める」「ゆさぶる」発問をいくつか用意しておくことで、交流を深められるようにしておく。



協議・交流から

【小学校グループ】

◆低学年への指導法について	⇒授業改善チェックリストを使う
◆全体交流の持ち方 ・ 特定の子を当てがち… ・ 一人一人の考えやノートを把握できていない	⇒机間指導で一人一人の考えを把握 ペア・小集団の時間がチャンス
◆低位の子への指導について ・ 指導が通らない ・ 励ましながら指導をしている ・ 低位の子につくと、周りの子が見えなくなる	⇒まず周囲を育てる → 自分でできる ↓ ↓ 低位の子を助けさせる 担任が低位の子の ↓ 指導にあたる 『聞いてできる』だけでも成長

<ルーティン化>

- ・ 毎回・毎時間同じ流れで進める
- ・ パズル、漢字ドリル、フラッシュカードなど、簡単に続けられるものを。

<ペア交流>

- ・ 「となりの人が言っていたことをあなたが教えてください」
- ・ 発言の機会を与える。

【中学校グループ】

◆振り返りの方法をどのようにしているか	⇒学校で統一の様式を作成し、どの教科の授業でも最後に5分間記入させる。 ⇒生徒の記述に対して、毎回全員にコメントを返している。 ⇒クロムブック等のICTを活用
◆少人数学級における道徳の授業	⇒ICT等を活用した周辺校との交流

○小中どちらも、実際に自身が抱えている課題を交流し、他校の実践などを聞くことで、自校へ戻ってからの手立てを考える助けとなっていた。

受講者アンケートから

◆どのような課題をもって臨んだか

- 問題解決型学習のための課題提示の仕方
- 課題－思考－交流－週末－振り返りまで無理のない思考の流れ方
- 生徒への問いかけの工夫
- 子どもが話したいと思う発問と、子どもが必要を感じる交流場面の設定
- 子どもの交流の仕方
- 授業力を高めること
- 日々の授業作り
- 日々の授業の進め方における効果的な指導方法や考え方
- 授業の進め方、組み立て方
- 主体的な学習に取り組めるような授業
- 個別最適化の授業づくりへのヒントを得ること
- タブレットの利用

◆課題解決に向けた研修内容

【単元計画】

- 先生も子どもたちも単元を見通して授業をしている。

【導入部】

- 開始5分で、今日、何をすべきかを子どもたちがつかんでおり、さらに答えたり話したりしたくなっている。
- 学習の中でどれだけ児童を引きつけられるかが重要。
- 子どもの意識をひきつける力・タイミング、交流の仕方。

- 教師がボケたり、わざとまちがいを見せたり、そこにも意図をもつことで、子どもが自然と課題を見つけていく理想的な導入を見ることができた。
- 生徒の興味をひきつける課題の設定が、全員をゴールに導く。
- 授業内のルーティン化されたルールを真似しようと思った。(課題を3人が順に読み上げ、「せーの」で一斉に。全員起立し、一度音読を終えたら座って続ける、など)

【展開・交流】

- 事前に発問をたくさん用意しておく、ブれることなく授業ができる。
- 教師が話をし過ぎないで生徒同士で考えさせて、全体を進行させていき、重要な部分で取り上げた発問をしたりする。
- ゆさぶりからの深める交流の入れ方。
- 交流する際の目的として、上位の子は友達が話したことを要約し、低位の子は友達が話したことを繰り返す、というルールを定着させていく。
- 子どもの言葉で「あー、確かに、あ、でも…」と友達の考えに自然に反応できる。

【授業改善チェックリスト】

- チェックリストが大変ありがたい。自分の授業を考えたり振り返ったりするのに活用できる。
- PDCA サイクルを踏んで授業改善を行い、授業力の向上を図っていきたい。
- 深い学びについて、視点を再確認し、日常の授業を見つめ直すことができた。
- 迷いがちになってしまう全体交流について見直してできるチェックリストが提示され、自分の授業改善に活かせる。

【板書型指導案】

- 板書型の指導案に、指導者側が気を付けるべき視点が記載されていてよかった。

II 検証授業について

第5学年

国語科学習指導案

日時	2022年11月1日(火)5校時
児童	第5学年17名
授業者	山内智志
単元名	雪わたり

【単元の目標・評価規準】

表現の工夫や登場人物の関わりを通して、「雪わたり」の魅力を紹介する文章を書いたり、ポップ作りができる。

知識・技能	比喻や反復などの表現の工夫に気づく
思考・判断 表現	登場人物の気持ちの変化を読み取り、一文で物語をまとめたり、物語の主題について自分なりに表現したりできる
主体的に学習に 取り組む 態度	魅力が伝わるポップをつくるという目的に向かって、一単位時間の課題に向かって積極的に取り組むことができる。

【研究とのかかわり】

視点1 9年間から今をみる学習指導
<p>C. 読むこと 精査・解釈</p> <p>【第1学年及び第2学年】</p> <p>エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>【第3学年及び第4学年】</p> <p>エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること。</p> <p>【第5学年及び第6学年】</p> <p>エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること</p> <p>【中学校第1学年】</p> <p>エ 文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えること。</p> <p>【中学校第2学年】</p> <p>エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成論理の展開、表現効果について考えること。</p> <p>【中学校第3学年】</p> <p>ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する。</p> <p>本単元では、「雪わたり」を読むことと、物語の魅力を紹介する文章やポップを書く活動の2つの活動からなっている。特に、『「雪わたり」を読みたいくなるポップ作り』を共通の目的としながら、特徴的な表現技法や話の展開の面白さ、作品の主題を読み取っていく。</p>

【単元計画(6時間)】

時	目標・課題・まとめ	
1	目	初発の感想を書き、学習の見通しを持つ
	か	ポップ作りのために、「雪わたり」から読み取るポイントは？
2	目	特徴的な表現に着目して読み、作品の面白さを見つける。
	か	紹介する特徴的な表現やおもしろさの一つ選ぶとしたら？
	ま	リズムのある表現「キックキックトントン」 比喻を使った情景描写
3	目	登場人物の気持ちの変化を読み取り、物語を一文にまとめる
	か	四郎とかん子の気持ちが変わった理由をランキングにするなら？
	ま	楽しく歌ったり踊ったりしたこと、礼儀正しく接してくれたこと 幻灯会へ招待してくれたこと、帰り道を心配してくれたこと
4	目	山場・クライマックスの場面を探ることができる。
	か	ポップで紹介するのは、どこまでがよいのか？
	ま	きつねのだんごを食べる前までを紹介する
5 本 時	目	山場の場面での両者の感情の高まりを「なみだ」に着目してよみとり、まとめることができる。
	か	四郎・かん子ときつねの生徒のなみだは同じ？違う？
	ま	違いはあるが、「心が通じ合えた涙」という点で同じ
6	目	読み取ったことをもとに、雪わたりの推薦文やポップのイメージをつくる。
	か	「読んでみたい!」と思わせるポップをつくるには？
	ま	特徴的な表現や続きが読みたくなるようにあらすじを書く
次単元	図書推薦会をしよう	

視点2 効果的なICTの活用

ロイロノート活用のねらい

【学習のねらいの焦点化】

→思考停止でノートだけを写す時間の削減。何をするのかを明確にするため。本時は、ペン図を活用。

【書き出すことへの抵抗感の軽減】

→タイピングだと自分の考えを、より早くたくさん表現できる児童の存在。また、書くことに、比べて個人差も少ないため。

【一人一人の学習状況の素早い把握】

【全員の意思表示(参加)を促す】

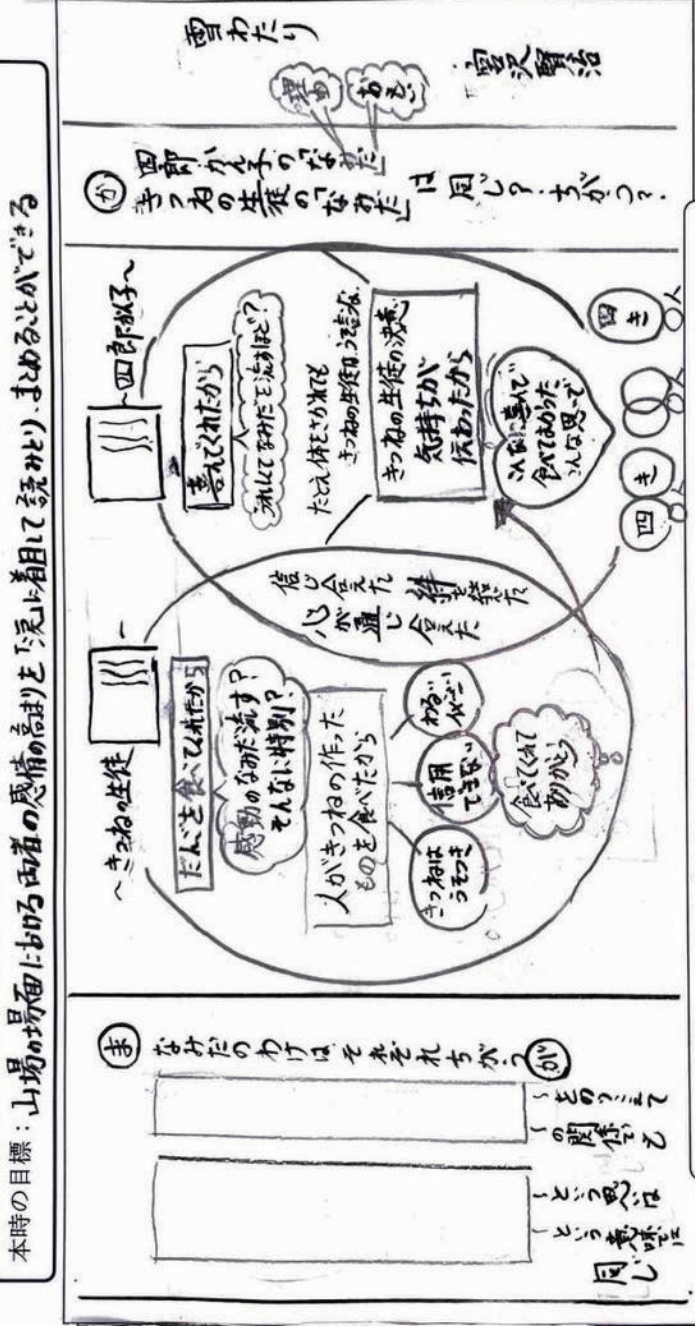
【本時の目標】

山場の場面における両者の感情の高まりを「涙」に着目し、読み取りまとめることができる。

【本時の展開 5/6時間目】

過程	学習活動	予想される児童の反応・活動 《発問》	指導の工夫 (視)(焦)(共) ○個別の配慮	学習評価 【知】【思】 【態】
つかむ(10分)	1. 前時までの確認 ・ポップ作りのために、残っている課題を確認 ・山場の場面を確認 ・本時のゴールを確認 2. 課題把握 ・山場の場面で四郎、かん子、きつねの生徒の感情が表れているところはどこか。	主題・キャッチフレーズ (四・き) あんまり嬉しくて涙がこぼれました。 (き) もうあんまり喜んで、みんな躍り上がってしまいました。 (き) みんな感動して両手を上げ…キラキラとなみだをながしたのです。	(視) 前時までの成果を模造紙やロイロノートで確認 (焦) 本時で重点的に読み取る範囲をしぼる。山場を確認	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> か 四郎とかん子のなみだと、きつねの生徒のなみだは、同じ？違う？ </div>			
解決する(20分)	3. 読みを深める土台をつくる ・自分の立場を決め、意思表示する。(アンケート機能活用) ・理由を考える ・個人思考(2分程度) ・交流する(1分程度) 個人のアウトプットの機会 友達との共通点・相違点・気付き 4. 深める ・ゆさぶりから始める ・教師の揺さぶりに対して、自分の考えをノートに記入する ・短いグループ討議を行う。 ・板書を使って共有化する。	《主発》それぞれの涙はどのような思いがわまっているでしょう。 ・同じ○人・違う○人 ・違う部分も同じ部分もある (き) 信じてもらえた。団子を食べたから。 《補》団子を食べるってそんなに特別なことかな。 《補》違う生き物だから特別なのか。 (四) 食べたことでここまで喜んでくれたといううれし涙 《補》喜んでくれたからって涙を流すほどかな。 《補》共通点を上げるとすれば何か。 ・うれし涙という意味で同じ ・心が通じ合えたという意味では同じ	(焦) 全員が自分の立場を決め、話し合いの土台を作れるように2択 (焦・共) 個人やグループでは、たどりつけない読みに、発問や揺さぶりを通してせまる。	【態】自分の立場を決め、話し合いに参加しているか。 【思】2者の涙の理由を、読み取ったことをもとにまとめ、伝える。
確かめる(5分)	5. まとめる ・交流したことをふまえて、まとめる		(焦) 書き出しは示すが、続きは自分で書く大切な視点を追加で示す。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ま なみだのわけに違いはあるが、人ときつねの関係をこえて心が通じ合えた嬉しさという意味では同じ </div>			
振り返る(10分)	6. ふり返る ・主題を考えてみる 人としてたいせつなことは～	信頼・心が通じる 感動・うそをつかない なみだ 《補》きつねと人の関係を、言葉で表すとどうなるか。 《補》両者の思いで共通していることは何か。		【思】読み取ってきたことと、作品から自分が感じたことを合わせて、主題を考える

授業略案 (R4年 / 1月 / 日 5 時間目) (教科・領域 国語) (単元・主題名 雪わたり) (授業者 山内智志) (学級 5年 / 組 17名)



1. 前時のお確認
- ホップアップ見直し
 - 本時のゴール
2. 課題把握
- 感情や気持ちの表れは？
 - 表れる文は？
 - 目じり表現は？
 - 「なごた」
3. 読者の土台
- 立場を汲み取る
 - 理由を伝える
 - 交流する

4. 深める
- ゆさぶりが始まる
 - ゆさぶりが深まる
 - 視点を焦点化する
 - 何がその空気を揺るがす？
 - ちがう生き物だから？
 - ちがったと流すほど？
 - とても憂鬱な状況の具体は？
5. まとめる
- 視点を示して書き足す
6. ふりかえり
- 主題

B評価 「なごた」の理由や思いによって自分たちの考えを押し、話し合ったりして、おもしろい。

【主体的な学び】にするための工夫

- 話し合いに参加する人増やす
- Which型課題
 - A、Bどちら？ 選択する
- 目的、ゴールを示す
- スライム、ポップアップ、読み組む
- 今日の学習日次表を... (と記入する)

【対話的な学び】にするための工夫

実態としてグループで話し合えるように

困難 → 自分の考えや立場を示せる

→ 友だちの話を聞き

→ 新しく気づきを得られる

→ 全体交流で深める共通の土台をつくる

→ アウトプットの機会を多く

【深い学び】にするための工夫

- 多数の意見にもあてはまらないようにする
- 深める発問や視点ととっておく
- 感覚ではなく論理的に読みとらえる
- ノートを書き写すための時間をとる

【授業の振り返り memo】

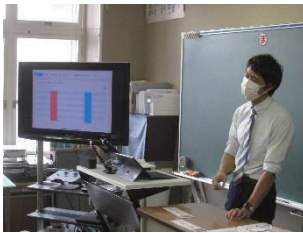
【検証】 仁木小 5年国語科「雪わたり」の実践から

検証
テーマ

「学びに向かう力」を育成するための授業改善

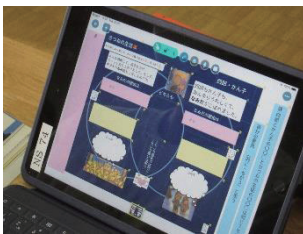
検証の
視点

- (1) 全員が「考えてみたい、説明したい、探求したい」と思える 発問の工夫
- (2) 意欲がもてる本時の課題提示 ～which 型課題～
- (3) 単元を貫く課題の提示



(1) 全員が「考えてみたい、説明したい、探求したい」と思える 発問の工夫

- 発問は考えてみたいと思わせるものであった。
- がんこくんというキャラクターを用い補助発問を加えることで、児童の思考にゆさぶりをかけることで、読みを深めることにつなげていた。
- 導入でのアンケート、グループ交流でのアウトプットなど、全員参加させるための工夫がいくつもあった。
- 交流したあとに自分の考えを追記する時間を取ることで、考えを「深める」ことができ、交流の意義をより大きなものにしていった。



(2) 意欲がもてる本時の課題提示 ～which 型課題～

- Which 型の課題は、自分の立場を示し、意見を持ちやすくする効果があると思うので、同じだと考えた人と、違うと考えた人との意見交流をするきっかけづくりとして有効であると感じた。
- 発問を含めた指導言は、子どもの実態に合わせて吟味する必要がある。



(3) 単元を貫く課題の提示

- 課題を提示することで、「ポップ作りをするために、教材の読み取りを行う」という明確な理由ができ、よいと思った。
- ポップ作りに関する単元計画を表した図が、一覧性があり、わかりやすいものになっていた。
- 単元計画を明確にすること、本時と単元計画のつながりを伝えることで、授業に必要感が出るように工夫されていた。
- 前時までに出た考えやキーワードを本時でも生かす習慣があると、物語の主題に迫ることができ、さらに学習が深まるだろう。



■ ICT 機器の活用と学習意欲

- ICT を全面的に活用した授業で、新しい時代の授業という雰囲気を感じた。
- ロイロノートで子どもが打ち込むだけのシートを作成し、考えを進めやすい授業となっていた。
- ICT を活用することで、書くことに課題が見られる児童も自分の考えを入力することができ、積極的に交流を行うなど、意欲的に授業に参加することができていた。
- タブレットのよさは共有することなので、友だちの考えや書いたことが他の子も見ることができるとよかった（ワークシートをTVに映すだけでもよい）。



■ 授業全体を通じた感想

- ・ 考えを書く場面で、友だちの言葉を使っていたので、語彙力を高めていくと発問に対する解答が深まっていく。
- ・ 山内先生の準備が緻密であり、子どもたちの意欲を高めるものであった。
- ・ 子どもの声が授業のほとんどの時間を占めていて、子ども主体の授業であった。
- ・ 経験の少ない先生にも見てほしい授業であった。



Ⅲ 指導案バンクについて

後志教育研修センター

指導案バンクのお知らせ

後志教育研修センターでは、後志管内の先生方向けて、授業力の向上、そして校内研究の活性化を目指し、何かできることはないかと考え、今年度より指導案バンクを始動しました。

明日の授業づくりヒントになるように、学習指導案や板書指導案、単元計画などを One Drive (クラウドフォルダ) にまとめました。

今年度の9月までは、研修センターの所員が所属する学校から収集し、10月より後志管内全学校で閲覧ができるようにしました。

ぜひ、今後も先生方に指導案バンクを活用していただきたいと思います。また、先生方からの指導案も募集しています。よろしくお願いいたします。

指導案コンテンツの閲覧方法

①クラウドフォルダへアクセス

☆下記のアドレスから後志教育研修センターのフォルダ内にある小学校・中学校に進んでいただき、閲覧をしてください。

https://siribesi-my.sharepoint.com/:f/g/personal/skc_siribesi_onmicrosoft_com/EuNfHewiwBILu5NDqLq21CwBrtFuRR3jaRIQ6-cC64M4ig?e=oeuGt4

☆右の QR コードからも閲覧が可能です。



②校種を選択する。

☆まず、小学校・中学校・特別支援の中から校種を選びます。

	名前	更新日時	更新者	ファイルサイズ	共有
	小学校指導案	5月2日	後志教育研修センター	7個のアイテム	共有
	中学校指導案	5月2日	後志教育研修センター	9個のアイテム	共有
	特別支援	8月4日	後志教育研修センター	4個のアイテム	共有

③教科を選択する。

☆次に、各教科の中から探している教科を選択します。

自分のファイル > 後志指導案バンク > 小学校指導案 

↑ 名前 ↓	更新日時 ↓	更新者 ↓
 国語	6月12日	後志教育研修センター
 算数	6月12日	後志教育研修センター
 道徳	6月12日	後志教育研修センター
 理科	6月12日	後志教育研修センター
 社会	6月12日	後志教育研修センター
 家庭	8月26日	後志教育研修センター
 保健	8月26日	後志教育研修センター

③学年を選択する。

☆そして、探している学年を選択し、クリックします。

自分のファイル > 後志指導案バンク > 小学校指導案 > 国語 

↑ 名前 ↓	更新日時 ↓
 1年	6月12日
 2年	6月12日
 3年	6月12日
 4年	6月12日
 5年	6月12日
 6年	6月12日

④単元を選択する。

☆学年をクリックすると、単元名が出てくるので、閲覧したい単元を選択します。

↑ 名前 ↓	更新日時 ↓	更新者 ↓
<input checked="" type="checkbox"/>  詩を味わおう	 : 8月4日	後志教育研修センター
 天気を予想する	8月4日	後志教育研修センター
 雪渡り	8月4日	後志教育研修センター
 白神山地	8月4日	後志教育研修センター
 言葉と事実	8月19日	後志教育研修センター
 情報ノートを作ろう	8月19日	後志教育研修センター
 新聞を読もう	8月19日	後志教育研修センター
 水平線	8月19日	後志教育研修センター

～単元計画～

雪は新しいエネルギー！学習計画（六時間）

学習のめあて

筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう

一 筆者の主張を、キーワードをもとに読み取ろう。

二 雪はエネルギーとはどういうことだろう。

三 雪エネルギーの利用の具体例を読み、筆者の主張に対して考えを持とう。

四 雪エネルギーの可能性と課題を読み取ろう。

五 筆者の説明の仕方に注目し、雪エネルギーについて自分の考えをもち、話し合おう。

六 テスト

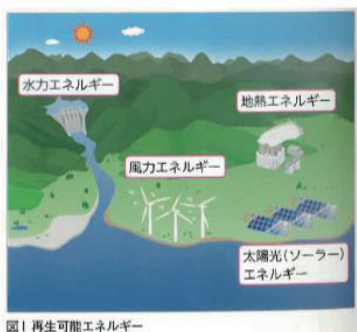


図1 再生可能エネルギー

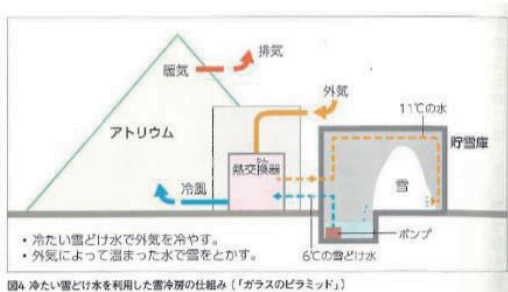


図4 冷たい雪どけ水を利用した雪冷房の仕組み（「ガラスのピラミッド」）

時間	学習内容
1	言葉の意味は？
2	主人公の感情の心情は変わった？①
3	主人公の感情の心情は変わった？②
4	主人公の感情の心情は変わった？③
5	窓に映った物は全部でいくつ？
6	このお話の「窓」は？ あなたなら窓を何が見たい？
7	正しい敬意の表し方はどれ？
8	正しい敬意の表し方はどれ？
9	テスト
10	あなたなら窓でどのような物を見たか？大発表！
11	読書感想文・ポップ・帯・書評はどれ？
12	書評の書き方のコツ「6つ」がわかるか？
13・14・15	babazon 書評レギュラーを書こう。
16	レギュラーを評価しよう。

単元の目標 Ⅱこれができるようになる！

- ◎いろいろな言葉を知り、考えて使うことができる。
- ◎物語の全体をとらえ、人物像や表現について読むことができる。
- ◎文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを書くことができる。
- ◎事実と感想、意見とを区別して書くことができる。

「きつねの窓」書評を書こう babazon レギュラーランキング



～板書型指導案～

国語用

本時の目標 **おわかれ話の内容と心情を捉え取り**

12/6 キンパの発 3/16 4/16
安房蓮子 文

① 主人公の心情は変わった？
② 心情の良し悪しは？
③ 心情の良し悪しは？
④ 心情の良し悪しは？

① 行動と心情
② 心情と行動
③ 心情と行動
④ 心情と行動

＜全体交流＞
★ 驚きとがっかり
★ 平手と涙の時の気持ちとがっかり

＜自力＞
★ 心の付けかき足してい
★ 驚き、心情曲線、気持ち

B評価 変化と成長の軌跡 **A評価**

振り返り	課題解決	課題追求	課題把握	
2 自己のキャリア形成の方向性と課題を捉えさせる	6 学習会場で考えさせる	4 振り返り取りまとめさせる	1 学びことに興味・関心を持たせる	主体的な学び
5 自己の学習態度を振り返り、次に活かさせる		5 ペア学習で考えさせる	3 見直しを持たせる	
		7 発問などの材料から考えさせる		深い学び
		8 発問の考えから考えさせる		
		9 多様な発問方法を使い分けさせさせる		
	10 知識を相互に関連付けさせる			

◇学習指導案

国語科学習指導案（略案）

日時：令和3年10月26日（火） 4校時
場所：須知安町立須知中学校 3年D組
生徒：3年D組 男子14名 女子16名 計30名
授業者：

- 単元名（教材名）**
多角的に分析して書こう 読得力のある批評文を書く
- 単元の目標**
・具体的な題材を基に、その価値などについて評価することができる。
・表現のしかたを考えたり資料を引用したりして、読得力のある文章を書くことができる。
・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
- 単元の評価標準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。【情報（2）ア】	① 「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を獲得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。【B（1）イ】 ② 「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。【B（1）ウ】	① 振り返り強く表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりして、学習の見直しをもって批評文を書こうとしている。【学習に向かう力、人間性等】

- 単元の指導計画**

時間	学習内容と主な活動	主な評価の観点	
		評価する内容	評価方法
1	○学習の見直しをもち、題材を選ぶ。 ①学習の目標と流れを確認し、学習の見直しをもち、 ②批評文について知り、題材を選ぶ。		
2 (14分)	○観点を決めて分析する。 ②選んだ題材を発表する。 ③観点を設定し、問いを考え、自分なりに答えをいく形で分析する。	【知識・技能】①	ワークシート
3	○構成を考える。批評文を書く。 ④分析を基に、読得力のある構成を考える。 ⑤引用する資料を選び、出典を明確にする。	【思考・判断・表現】① 【思考・判断・表現】②	ワークシート
4	○批評文を書く。学習を振り返る。 ⑦六百字程度で批評文を書く。 ⑧書いた批評文を読み合い、意見を交流する。	【思考・判断・表現】② 【主体的に学習に取り組む態度】	観察 ワークシート

(3) 本時の展開

	生徒の活動	教師の活動	形態	■指導上の留意点	
導入 5分	○生徒の活動 ◆予想される生徒の考え	▽教師の活動 ▽テレビにて全体の流れを提示する。	値	■タブレット・テレビ・板書を用意しておく。 ■（生徒）タブレット使用法では、閉じておく。	
	○タブレットを用意し、ログインしておく。 課題 広告を客観的に分析するための大切なことは、どのようなことだろうか。	▽テレビにて全体の流れを提示する。	値		
展開 35分	○全体の流れと本時の課題を確認し、本時の見直しを立てる。	▽机間指導	値	■決定できない生徒は、用意したものの中から進ばせる。	
	○分析する広告を決定する。	▽机間指導	値		
	○グループ内で決定した広告を発表する。	▽WSを配布。	グループ		■観点の数定例を参考すること・この後交流するのでもまずは自力で考えることを伝え、机間指導。
	○決定した広告に対する批評の観点を考え、それに対する自分の考えを書く。 ◆は別添WSを参考	▽新たなアイディアは赤ペンで記入するよう伝える。	グループ		■観点を付け加えたり、衣端がたれた観点について自分ならどのように考えるか伝え合ったりする。
終 まとめ 10分	○交流内容を整理する。	▽再度、課題を確認する。 ▽机間指導	値	■自由指名ではなく、意図をもって指名する。 （意図…本時のポイントをおさえている。発表を通して国語への自信をつける。）	
	○客観的に対象を分析するための大切なことは何か、考える。 まとめ（例） ◆客観的に分析するために大切なことは、いろいろな面から対象（広告）について考えること。 ◆他の人の意見を聞くこと。 ◆多角的に対象について考えてみること。	▽再度、課題を確認する。 ▽机間指導	全体		
	○まとめを確認する。 ○自分と異なる意見は赤ペンで記入する。	▽水時の流れを提示する。	全体		
	○次時の見直しをもち、	▽プリント回収			
	○タブレット片付け、プリント	▽プリント回収			

【第3章】

研究の 成果と課題

今年度の研究の成果と次年度に向けた課題

1. 「《視点1》学びに向かう力を育成するための授業改善」の成果

●板書型指導演

・研修センターで推奨している板書型指導演について、研修講座 学習指導（授業づくり、授業改善）の中で、受講者に伝えることができた。

●研修講座の中で授業実践公開

・今年度は、研修講座 学習指導（授業づくり、授業改善）の両講座で、研修センターとして発信していきたい内容を授業実践を通して、推進することができた。

・受講者の声の中には、

「授業が素晴らしく、主体的・対話的で深い学びを目の前で見せて頂きました。」

「他の授業や学校を見ることはそれだけで勉強になるので、授業実践の講座はとても良いと感じました。」

「板書型の指導演に指導者側が気をつけるべき視点が記載されていて良かったです。また、授業もねらいにせまる工夫がされていて大変勉強になりました。講義では迷いがちになってしまう全体交流について見直しできるチェックリストが提示され、自分の授業改善に生かせると思いました。」など、たくさんの肯定的な意見をもらうことができた。

●検証授業

・今年度は、コロナ禍の中でも、1本検証授業を行うことができた。

・クラスの全員が主体的に学習に参加することができるために、①発問の工夫、②課題提示～which型、③単元を貫く課題の提示、この3つの視点をもって検証授業を行った。

・結果、これらが、「学びに向かう力を育成する」授業を目指す上で、効果的だったことが事後研究の中でまとめることができた。

2. 「《視点2》実践的指導力の向上を図るための教職員研修の工夫・改善」の成果

●集合形式の研修講座

・今年度は集合形式で校内研修の講座を行うことができた。その中では、校内研修にかかわる課題や悩みなど出してもらい、受講者の先生同士でその課題に対する自身の取組などを交流することで、解決や改善の糸口をつかんでもらうことができた。

・受講者の声の中には、

「講師の先生方の話が今後にも生かせるものばかりでした。やはり、集合形式で行う方が楽しいです。」

「研修計画の立て方、進め方、アイデア（パッケージ化）など多岐に渡って学習をすることができました。

一度は聞いたことがあっても再確認させて頂けた時間となり、とても有意義でした。」など

集合研修で顔を合わせ交流できたことに肯定的な感想をもらった。

●指導演バンク

・管内の教職員の実践的指導力の向上を目指し、指導演バンクを始動させ、研修センター所員が所属する学校から学習指導演や板書型指導演などを収集し、後志管内全学校に発信することができた。

3 次年度に向けての課題

●さらなる研究推進

・次年度は、4年次研究の最終年度を迎える。研究の集大成として、研修講座や検証授業、指導演バンクなど通してさらなる研究推進に努めていきたい。

・また、指導演バンクについては、管内の教職員の方々が、より活用しやすいものになるように、発信していきたい。

あ と が き

学校現場が新型コロナウイルスと向き合い3年が経ちます。この間、それぞれの学校現場においては、With コロナ時代の新たな取組が見られるようになりました。コロナ感染につきましては、未だ予断を許すことはありませんが、教職員のみなさんの「学びを止めない」という思いと工夫が、着実に子どもたちの成長につながっていることと思います。

4年次研究の3年目となる今年度は、当センターの所員が担当する研修講座を全て集合形式の形で開催することができ、受講者のみなさんから肯定的な感想をいただくことができました。

また、今年度は、コロナ禍の中でも、研修講座内の授業実践や検証授業を実施することができました。当センターが研究や研修を重ねてきた「学びに向かう力の育成」について、授業を通して検証することができたことは大きな成果と言えます。特に、板書型指導案を活用し、発問や課題の提示の工夫、単元の見通しを子どもたちにもたせたことで、どの子ども主体的に学習に参加することができました。次年度の研修講座の中で、当研修センターで推進している取組を発信し、管内の教職員の授業力を向上させていく使命を感じています。

そして、昨年度までは構想段階であった指導案バンクですが、クラウドフォルダを活用して始動させました。学校により子どもたちの実態は違いますが、色々な学校の実践や指導方法を学ぶことにより、明日の授業づくりのヒントとなれば幸いです。今後もこの指導案バンクを充実させ、後志管内各校のOJTに寄与できる研修センターを目指していきます。

末筆になりましたが、本研究紀要作成にあたり、お力添えいただきました研究委員の先生方をはじめ、教育関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和5年3月

----- 研究委員 -----

学習指導に関する調査研究委員会

研究委員長	富樫 広介	(黒松内町立黒松内中学校)	教諭
副委員長	田口 晴也	(仁木町立仁木小学校)	教諭
委員	森 拓実	(倶知安町立西小学校)	教諭
	武田 麻衣子	(岩内町立岩内東学校)	教諭
	高田 響	(仁木町立銀山中学校)	教諭
	中村 かずえ	(余市町立黒川小学校)	教諭
	菊地 勇人	(京極町立京極中学校)	教諭
	森本 恵	(倶知安町立北陽小学校)	教諭
	山本 啓太	(岩内町立岩内第一中学校)	教諭
	千葉 慎也	(寿都町立寿都小学校)	教諭

研究協力員

担当指導主事	新栄 裕	(北海道教育庁後志教育局義務教育指導班 主任指導主事)
--------	------	-----------------------------

研究紀要発行委員会

研修部長	原田 益明	(倶知安町立倶知安小学校 主幹教諭)
研修講座主事	小山 正博	(倶知安町立倶知安中学校 教諭)
調査研究主事	鶴見 卓哉	(岩内町立岩内西小学校 教諭)